建築施工管理技士
基本用語辞典

「建築施工管理技士 基本用語辞典」は、1 級建築施工管理技術検定試験・2 級建築施工管理技術検定試験を受験する方に向けて、建築施工に関する基本用語を、施工における留意点と共に、出題分野別の五十音順で並べたものである。各用語の説明は、過去の技術検定試験を徹底分析した上で、試験において問われやすい事項を重視して記述している。これは、単なる用語辞典ではなく、技術検定試験合格のための必携の書である。

建築技術

躯体工事

仕上げ工事

基本用語辞典の読み方

( ) ：直前の単語の略称または記号です。

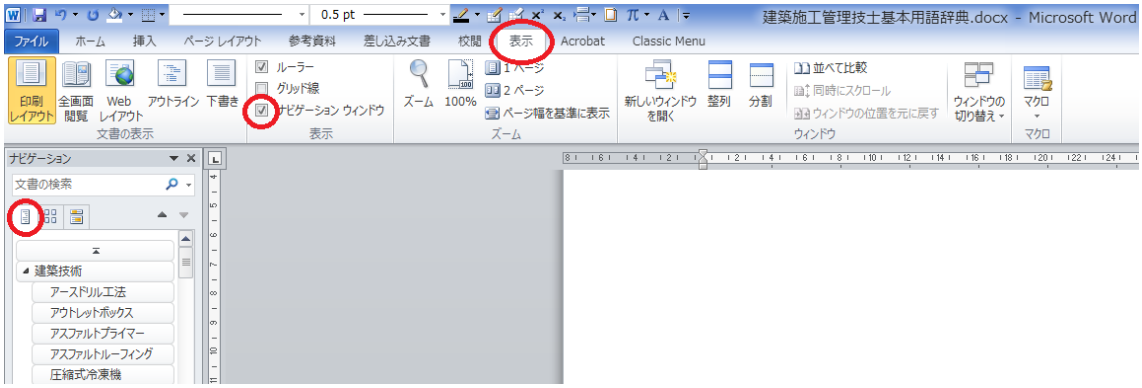
[ ] ：直前の単語の単位です。

{ } ：直前の単語の読み方です。

〈 〉 ：直前の単語や文章の別称または説明です。

基本用語辞典の使い方

Word 文書(*.docx)版の基本用語辞典では、調べたい用語を見出しから検索することができます。ナビゲーションウィンドウが表示されていない場合は、次の手順で表示させることができます。Word 文書版の基本用語辞典を必要とされる方は、GET 研究所ホームページの「お問い合わせ」(https://get-ken.jp/contact/)からご連絡ください。



建築技術

アースドリル工法

ドリリングバケット（回転バケット）で掘削を行い、地表面からある程度の深さに達したら表層ケーシングを挿入し、ベントナイト溶液で孔壁の崩壊を防ぎながら掘削した後、鉄筋篭を挿入し、現場で場所打ち鉄筋コンクリート杭を製造する工法。

アウトレットボックス

電線相互の接続点や分岐点に設置される箱。電線相互の接続は、アウトレットボックスなどのボックス内で行う必要がある。管路内に電線の接続点を設けてはならない。

アスファルトプライマー

ブローンアスファルトを揮発性溶剤で溶解して作られた、接着性を確保するための塗布材料。

アスファルトルーフィング

厚紙にアスファルトを含浸させて作られたシート状のアスファルト防水材。

圧縮式冷凍機

アンモニアなどのガスを、圧縮機で加熱して蒸発させ、凝縮器で冷却して液化させる冷凍機。空調設備の心臓部である。冷媒が「蒸発」→「圧縮」→「凝縮」→「膨張」のサイクルを繰り返すことで、冷暖房を行う。圧縮機の構造により、回転式・往復動式・遠心式などに分類されている。

圧縮鉄筋

コンクリートの圧縮される部分に配置される鉄筋。鉄筋コンクリートにおいて、靭性の確保やたわみの防止のために設けられる。

圧力水槽方式

給水管を通して受水槽で受けた水を、ポンプで圧力水槽に圧送し、水槽内の水圧を利用して需要家に給水する方式。停電時にも、水槽内の水圧が保たれている間は給水が可能である。

あばら筋

鉄筋コンクリート造(RC 造)の梁において、梁の主鉄筋と直角方向に配置される補強筋。梁のせん断耐力を補強するために設けられる。

アルカリシリカ反応

セメント中のアルカリ成分と骨材中のシリカ成分が接触して化学反応を起こし、骨材中のシリカ成分が膨張する現象。アルカリシリカ反応が発生すると、硬化後のコンクリートがひび割れ、コンクリートが劣化する。

泡消火設備

泡消火薬剤に水を混合した泡を放射する消火設備。泡による窒息効果と、水による冷却効果で消火する。ガソリンなどの油類や危険物による火災に有効なので、石油コンビナートなどに設けられている。

合わせガラス

2 枚以上の板ガラスの間にプラスチックフィルムを挟んで接着したガラス。破損時に破片が飛び散りにくい。

安山岩

火成岩の一種。硬度が大きく、耐久性に優れるが、光沢はない。

板振動型吸音材

剛壁と薄板との間に空気層を挟んだ吸音材。低音域の音を吸収しやすい。

1 成分形ウレタンゴム系防水材

空気中の水分によって硬化する湿気硬化型のウレタンゴム系防水材。

1 成分形高モジュラス形シリコーン系シーリング材

強度・耐熱性・耐寒性に優れたシーリング材。カーテンウォールのガラス回りや、浴槽・洗面化粧台などの水回りの目地に用いられる。水回りの目地に用いるときは、防黴剤{ぼうかびざい}を添加する必要がある。

1 成分形シーリング材

湿気硬化または乾燥硬化のシーリング材。空気と反応して硬化する。

一面摩擦

2 枚の板を高力ボルトで接合したときに生じる摩擦面。

インシュレーションボード

植物繊維を成形して作られた低密度の板。畳・断熱材・外壁下地材などに用いられる。

インテリアゾーン

室内の中央部。外部環境による温度変化は小さい。

ウィルトンカーペット

基布とパイル糸を機械で同時に織り込んで作られた敷物。耐久性・デザイン性に優れる。

上降伏点

鋼材が降伏する最大の応力。単に「降伏点」といった場合、上降伏点のことを表す。

ウェザリング

紫外線などの外部環境の影響により、塗装が風化して劣化すること。

ウェブプレート

H形鋼の中間部に設けられた鋼板。腹板とも呼ばれる。

雨水桝

ひとつの敷地内において雨水を集めるための桝。雨水と汚水は別々の桝に集める必要がある。雨水桝には、深さ 150mm 以上の泥溜めを設ける。

内法間隔{うちのりかんかく}

ある建材の室内側から、その対面にある建材の室内側までの距離。建築物の室面積は、壁の室内側に沿った線である内法を基準とした内法面積で表されることが多い。

埋込み杭

杭を直接地盤に打ち込むのではなく、地盤を掘削した後、既製杭を挿入する工法。

ウレタンゴム系防水材

屋根などの塗膜防水に使用される防水材。硬化剤を使用する 2 成分反応型の防水材である。

Hf 蛍光ランプ
高周波点灯専用管を用いた照明設備。高効率かつ長寿命で、ちらつきが少ない。事務所などの照明として用いられる。

AE コンクリート
混和剤の一種である AE 剤を使用し、フレッシュコンクリート中に空気を導入したコンクリート。その内部に気泡（エントレインドエア）を有している。ワーカビリティーが改善され、耐凍害性も向上するが、その強度は低下する。

液状化
地下水面下にある緩い砂地盤において、地震による繰返しせん断力を受けて、砂粒子相互の摩擦力が減少し、砂粒子が噛み合わせを失って浮遊状態になることで、地盤が流動化する現象。液状化現象が発生すると、地盤支持力が低下するので、地上の建築物が重力で沈下し、地下に埋設された構造物が浮力で浮上する。

エキスパンションジョイント
隣接する 2 つの建築物の相互間に設けられる伸縮継手。地震などによって建築物が動いたとき、その変形に追従することができる。

エコー
音源から直進した直接音と、天井や壁などではね返された反射音により、音が二重に聞こえる現象。直接音と反射音との間隔が 20 分の 1 秒以上開いていると、エコーが感じられる。反響と呼ばれることもある。

エコセメント
再資源化した産業廃棄物を加えて製造したセメント。

SS 鋼材
一般構造用圧延鋼材の略称。形鋼などのボルト接合により施工される鋼材である。

SN 鋼材
建築構造用圧延鋼材の略称。その引張強度に応じて、SN400 と SN490 に分類されている。また、溶接特性に応じて、A 種・B 種・C 種に分類されている。溶接特性（溶接時などにおける変形に対する強さ）は、A 種・B 種・C 種の順に大きくなる。

SN 400
引張強度が 400N/mm² の一般的な建築構造用圧延鋼材。

SM 鋼材
溶接構造用圧延鋼材の略称。主として溶接により施工される鋼材である。

枝張り
樹木の枝が四方に伸長している長さのうち、その最大の長さと最小の長さを平均した値。

FR 鋼材
軟鋼にモリブデンなどを添加することで、高温時の耐力低下を抑制した耐火性鋼材。

L 値
床衝撃音をどの程度遮音できるかを示す指標。L 値が小さい床は、床衝撃音を遮音しやすい。

演色性
その照明による物の見え方が、どれだけ自然光の時の見え方に近いかを示す指標。演色評価数として表される。

遠心力鉄筋コンクリート管
回転式の機械で製造された鉄筋コンクリート管。埋設排水管として用いられる。遠心力鉄筋コンクリート管のソケット管は、漏水を防止するため、受口を上流側に向けた状態で、下流側から上流側に向かって、順次差し込んでゆく。その排水勾配は、100 分の 1 以上とする。

屋内消火栓
屋内で火災が発生してから消防隊が到着するまでの間に、在住者が使用するために設けられた消火設備。

汚水桝
ひとつの敷地内において汚水を集めるための桝。雨水と汚水は別々の桝に集める必要がある。汚水桝の底部には、汚水の流れを円滑化するため、水路となるインバートを設ける。

汚染物質
二酸化炭素・一酸化炭素・ホルムアルデヒドなどの室内環境を悪くする化学物質の総称。

帯筋{おびきん}
鉄筋コンクリート造(RC 造)の柱において、柱の主鉄筋を直角方向に取り巻く補強筋。柱のせん断耐力を補強するために設けられる。

帯筋間隔
帯筋相互の配置間隔。柱梁接合部内の帯筋間隔は、150mm 以下とする。

音圧レベル[dB]{デシベル}
音の大きさを対数として表した値。音圧レベルが 10dB 上昇するごとに、音のエネルギーは 10 倍になる。

開先
溶接する 2 つの部材間に設けられる溝。

改質アスファルト
合成ゴムやプラスチックを添加したアスファルト。その温度特性により、Ⅰ類とⅡ類に分類されているが、Ⅱ類の方が低温時における耐折曲げ性が大きい。

回折
音が障壁の裏側に回り込む現象。音は、その周波数が低いほど、回折しやすい。

開放型スプリンクラーヘッド
火災感知器が作動すると開放され、一斉に放水を開始する消火設備。舞台やスタジオなどの大規模な施設のスプリンクラーヘッドは、開放型としなければならない。

カクテルパーティー効果
2 つ以上の音を同時に聞いていても、1 つの音を選択的に聞くことができる耳の機能。

火災時管制運転
火災時に、乗客を避難させるため、エレベーターを自動的に避難階まで直行させること。

可照時間
雲が全くないと仮定して、その日に日照がある時間。日の出から日没までの時間に等しい。

火成岩
地上に出たマグマが冷えて固結することにより作られる岩石。

型板ガラス
型模様を熱間転写したガラス。光は通過させるが、視線は通らない。

片面溶接
2 つの部材を溶接するとき、その表側のルート部だけにグルーブを設けて溶接し、裏側のルート部にはグルーブを設けず溶接もしないこと。部分溶込み溶接の一種。曲げモーメントを受けない部分に対してのみ用いられる。

換気回数
室内の全空気が 1 時間あたりに何回入れ替わるかを表した回数。「換気回数(N)[回/h]＝必要換気量(Q)[m^3/h]÷室容積(V)[m^3]」である。

完全溶込み溶接
2 つの部材を溶接するとき、溶接部材の両面に溶着金属を配置し、接続部全体を溶接すること。

乾燥収縮
コンクリートの硬化中に、その表面から水分が蒸発し、十分な水和反応が起こらなかったために、コンクリート表面に収縮ひび割れが生じること。

気硬性
材料が空気中の二酸化炭素と反応して硬化する性質。漆喰{しっくい}やドロマイトプラスターは、気硬性である。

基礎スラブ
構造物の基礎となる鉄筋コンクリート製の床版。地盤反力や水圧を受けるので、基礎梁で支持することが一般的である。

輝度[cd/m^2]{カンデラ毎平方メートル}
光源面または反射面における面積あたりの明るさ。光束の面密度で表される。単位は[sb]{スチルブ}で表されることもあり、1sb＝1cd/cm^2 である。

吸音材
音を吸収し、室内で発生するエコーを軽減する材料。その機構により、吸音しやすい周波数が異なることから、多孔質吸音材・板振動型吸音材・共鳴型吸音材に分類されている。

吸音率
壁などに入射した音が、反射されずに吸収される割合。「吸音率＝(入射音のエネルギー－反射音のエネルギー)÷入射音のエネルギー」である。軟らかい材料・軽い材料・穴の開いた材料は、吸音率が大きい。

給水タンク
圧力水槽方式や高置水槽方式において、水を一時的に貯めておく水槽。飲料用受水タンクとも呼ばれる。給水タンクには、直径が 60cm 以上の円形マンホールを設けなければならない。

凝灰岩
堆積岩の一種。軽量で加工しやすいが、耐久性に劣る。

強化ガラス
表面を熱処理して圧縮応力層を形成したガラス。強度は大きいが、破損時には細粒状となって飛散する。

共鳴型吸音材
表面に複数の孔を並べた吸音材。製作時に設定された特定の周波数の音を吸収しやすい。

極限支持力
杭が支持できる鉛直方向における最大抵抗力。打込み杭は、埋込み杭に比べて、極限支持力が大きい。埋込み杭は、極限支持力に達するまでに必要な沈下量が大きい。

極限周面摩擦力
杭周と地盤との接触面における最大摩擦力。埋込み杭は、打込み杭に比べて、極限周面摩擦力が大きい。

許容耐力
部材に作用する曲げ・ねじり・せん断などの応力について、その部材が耐えられる最大の応力のこと。

均斉度
ある作業面の照度分布が、どれだけ一様かを示す値。「均斉度＝作業面の最低照度÷作業面の最高照度」である。

金属製折板
ロール材を用いて、丸みを付けて折り曲げられた金属板で作られた屋根材。タイトフレームとの結合形式により、重ね形・はぜ締め形・かん合形に分類されている。また、その耐力により、1種～5種に分類されているが、この数値が大きいほど耐力が大きい。

グラスウール
ガラス繊維から作られた材料。断熱性・吸音性・耐火性に優れる。

クリープ
持続した固定荷重による部材の弾性変形が生じた後、その荷重の大きさが変わらないにも関わらず、時間の経過に従って塑性変形が発生し、部材の変形量が増大する現象。

グルーブ溶接
溶接する部材間に溝を設けて、その溝に溶着金属を流し込む溶接方法。この溝をグルーブという。

グレア
高輝度の照明や、輝度の差が大きい照明などによって生じる感覚的な眩しさ。

グレイジング
窓枠などにガラスをはめ込み、シーリング材で周囲を固定する作業。

クレージング
紫外線などの外部環境の影響により、シーリング材に亀裂が生じること。

珪酸カルシウム板
珪酸質材料に、石灰や繊維などを添加して作られた板。断熱性・耐火性・耐水性に優れる。内装用のタイプ 2 と耐火被覆用のタイプ 3 に分類されている。

ケーブルラック
幹線ケーブルを載せて配線するための架台。その金属部分には、幹線ケーブルの使用電圧が 300V 以下であれば D 種接地工事を、300V を超えていれば C 種接地工事を施さなければならない。

化粧スレート板
セメントと繊維を混ぜて作られた屋根材。その形状により、平形・波形に分類されている。その吸水率は、28%以下でなければならない。

顕熱
物体の温度を上昇させるために消費される熱。

顕熱比
全熱負荷に含まれている顕熱負荷の割合。「顕熱比＝(顕熱負荷)÷(顕熱負荷＋潜熱負荷)＝(顕熱負荷)÷(全熱負荷)」である。

顕熱負荷
温度変化によって室内で発生する熱。日射や照明による熱負荷は、水分の出し入れがないので、顕熱負荷のみを発生させる。

コインシデンス効果
入射した音波が板材と共振することで、遮音性能が低下する現象。

高圧
送電電圧や受電電圧が、直流電力では 750V を超えるが 7000V 以下、交流電力では 600V を超えるが 7000V 以下であること。

剛心
建築物の剛性から見た中心点。地震時における建築物床構造の回転の中心点が、剛心である。

構造用石膏ボード
釘側面抵抗を強化した強化石膏ボード。耐力壁の面材などに用いられる。断熱性・耐火性に優れているが、耐水性に劣る。

光束[lm]{ルーメン}
ある面を通過する光の放射エネルギー量。

高置水槽方式
受水槽に貯留した水を、ポンプで高置水槽に汲み上げ、重力を利用して需要家に給水する方式。停電時にも、水槽内に水が残っている間は給水が可能である。

抗張積
アスファルトルーフィングなどの伸びやすさを示す指標。「抗張積＝引張強度×最大荷重時の伸び率」である。

交通開放温度

敷均し後、車両の通行を許すことができる温度。一般的には、舗装表面温度が 50℃以下になれば、交通開放できる。一般的な舗装では、初転圧温度が 110℃～140℃、敷均し温度も 110℃以上であるため、敷均し後すぐに交通開放することはできない。舗装表面温度が高いままで交通開放すると、舗装表面にわだち掘れが生じる。

光度[cd]{カンデラ}

光源からある方向に発散される光の強さ。光源が単位立体角あたりに放つ光束量で表される。

降伏

鋼材に一定以上の応力が加わった後、応力が減少しても、その変形が増大し続ける現象。

降伏点

鋼材の応力―ひずみ曲線において、鋼材に応力を加えていったとき、ひずみが急に大きくなる点。応力が上降伏点に達するまでは、応力が大きくなるに従ってひずみも大きくなる。応力が上降伏点に達すると、その後に応力を少なくしていっても、下降伏点に達するまではひずみが大きくなり続ける。応力が下降伏点に達すると、その後に再び応力を加えるまではひずみが増大しなくなる。軟鋼は明確な降伏点を示すが、硬鋼や高張力鋼は明確な降伏点を示さない。

高力ボルト

ボルトの上下に配置した 2 枚の板を締め付け、その板の摩擦力で引張力に抵抗するボルト。高力ボルト摩擦接合では、ボルト孔に応力が集中しにくい。また、高力ボルトは、せん断力を受けず、引張力のみを受けるため、繰返し応力によるボルトの疲労を考慮する必要がない。

高炉セメント

普通ポルトランドセメントに、粉砕した高炉スラグ（鉄の生産過程で生じる産業廃棄物）を添加した混合セメント。アルカリシリカ反応を抑制し、化学抵抗性を増加させる効果があるので、基礎などの地下構造物の材料として用いられる。

腰壁{こしかべ}

低い位置だけにある壁。その上端は、窓の下端程度である。

ゴムアスファルト系防水材

外壁などの塗膜防水に使用される防水材。その施工方法により、手塗りタイプと吹付けタイプに分類されている。また、手塗りタイプのものは、ゴムアスファルトエマルションだけで乾燥造膜するものと、硬化剤を用いて反応硬化させるものに分類されている。

ゴム床タイル

天然ゴムや合成ゴムを主原料とする床タイル。弾力性に優れるが、耐油性に劣る。

固有周期

固有振動の一揺れにかかる時間。固有周期の振動が加わると、その対象は最小のエネルギーで安定して振動する。建築物の固有周期は、階ごとに異なる。

固有振動

構造物が、その特性に応じた周期で振動する現象。固有振動は、外力による振動を止めても継続する。

コルク床タイル
天然コルク外皮を主原料とし、ウレタン樹脂や塩化ビニルなどで加工した床タイル

コンクリート埋設配管
コンクリート中に埋設して使用する管。金属管である場合は、その管厚を 1.2mm 以上としなければならない。

コンポジションビニル床タイル
バインダーの含有量が 30%未満の床タイル。単層である場合が多い。

彩度
色の鮮やかさを示す指標。無彩色を 0、最大を 10～14（色相により異なる）として表す。

サイホン式トラップ
排水管を屈曲させて深さ 5cm～10cm の封水を確保し、封水によって悪臭を防ぐトラップ。

砂岩
堆積岩の一種。吸水性が大きく、汚れやすいが、耐火性に優れる。

座屈
圧縮荷重を受けた柱などの部材が破壊されること。

座屈換算長
座屈しやすさを示す指標。柱の両端の固定方法によって異なり、この値が大きいほど座屈しやすい。座屈換算長は、両端が固定された柱では柱長の 0.5 倍、一端のみが固定された柱では柱長の 2 倍となる。すなわち、両端が固定された柱の座屈強度は、一端のみが固定された柱の 4 倍である。

残響時間
発音を停止してから、その音圧レベルが 60dB 低下するまでにかかる時間。音楽ホールなどの評価に関わる指標のひとつである。

三相三線式
位相差のある交流電力を 3 本の配線で送電する方式。大型動力機器への電力供給に用いられる。

三相四線式
三相三線式の送電方式に 1 本の帰り線を加えた方式。大型動力機器への電力供給に用いられる。

3 ヒンジラーメン構造
地面との接点（脚部）にある 2 箇所のヒンジ支点と、梁との接合部（頂部）にある 1 箇所のヒンジ支点から構成される門型ラーメン構造。

CAV 方式
定風量方式の略称。そのほとんどは単一ダクト方式である。

シージング石膏ボード
芯にある石膏とその両面にある厚紙を防水処理した石膏ボード。屋内の湿気がある室において、壁下地・天井下地として用いられる。

CD 管
配線を納めるための合成樹脂管の一種で、自己消火性がない。コンクリートへの埋設配管と

してのみ使用可能である。PF 管と区別するため、オレンジ色に染められている。

シーリング工事

構造物の気密性や水密性を高めるため、その目地や隙間などを充填剤で埋める工事。

シーリング材

シーリング工事で使用される充填剤。枠へのガラスの留付けで使用されるグレイジング専用のタイプ G と、グレイジング以外の目的に用いられるタイプ F に分類されている。また、タイプ F のシーリング材は、目地幅の変形能力により、複数のクラスに分類されている。

シールコート

アスファルト舗装の表層上にアスファルト乳剤を散布すること。予防的維持工法の一種である。

自家発時管制運転

停電時に、乗客の閉じ込めを防ぐため、自家発電装置によってエレベーターを避難階または最寄り階に移動させること。

色相

色そのものを示す指標。赤・青・緑などの一般的な意味での「色」はこれである。

軸方向力

梁やトラスなどの部材において、中心軸に沿う方向に生じる引張力または圧縮力。

支持杭

支持地盤に杭を貫入させて、杭の先端抵抗力で建物を支持する杭。

地震時管制運転

地震時に、乗客の閉じ込めを防ぐため、エレベーターを自動的に最寄り階に停止させること。

地震層せん断力

地震による応力によって各階に作用するせん断力。地震層せん断力そのものは、下階の方が上階よりも大きくなる。

地震層せん断力係数

地震層せん断力の算定に必要となる係数。階ごとにその値が定められている。地震層せん断力係数は、上階の方が下階よりも大きくなる。

下降伏点

一般的な鋼材が降伏する最小の応力。上降伏点で降伏が起こった後、更なる応力を加えない限り、ひずみが増大しなくなる点。

室内環境基準

機械換気設備や空気調和設備を設けた室における空気の状態を定めた基準。建築物環境衛生管理基準により、下記の項目ごとに定められている。

二酸化炭素濃度	：1000ppm 以下
一酸化炭素濃度	：6ppm 以下（旧基準では 10ppm 以下）
ホルムアルデヒド濃度	：0.1mg/m^3 以下
浮遊粉塵量	：0.15mg/m^3 以下
気流	：0.5m/s 以下

温度　　：18℃以上 28℃以下（旧基準では 17℃以上 28℃以下）
相対湿度　　：40%以上 70%以下（温度と湿度は空気調和設備を設けた室のみ）

芝張り

法面を保護するため、その表面に芝を植えること。法面の芝張りは、縦目地を通さないよう、ベタ張りとして施工する。

遮断層

コンクリート舗装のうち、軟弱な路床の表面に施工される砂礫層。下層路盤の軟化を防ぐために施工される。その層厚は、15cm～30cm 程度である。

重心

建築物の質量から見た中心点。建築物の重心は、建築物の剛心と一致させることが望ましい。

樹高

根鉢の上端から樹冠の頂点までの垂直距離。

照度[lx]{ルクス}

光を受ける面の明るさ。単位面積あたりに入射する光束量で表される。

浸水時管制運転

浸水時に、水濡れによるエレベーターの故障を防ぐため、地下にあるエレベーターを自動的に地上の避難階まで直行させること。

靭性{じんせい}

構造物や部材の粘り強さ。靭性が大きい部材は、力が加わっても脆性破壊されにくい。

浸透トレンチ

雨水を浸透させて排水する地下水路。その底面は、転圧せずに、砕石などを敷いておく。

針入度

アスファルトの硬さを示す指標。針入度が大きいほど軟らかいアスファルトであることを示す。アスファルト舗装の針入度は、一般地域では 60～80、積雪寒冷地域では 80～100、低温地域（非常に低温になる地域）では 100～120 とする。

水銀ランプ

封入された窒素を放電させる内管と、内管を保護するための外管を持つ照明設備。高効率かつ長寿命である。公園などの屋外照明や、高天井の室内照明として用いられる。高速で動くものがちらついて見えるストロボ現象が発生するため、野球場などの照明には不向きである。

水硬性

材料が水と反応して硬化する性質。石膏や石膏プラスターは、水硬性である。水硬性のセメントは、空気中の二酸化炭素に触れると、劣化して質量が減少し、硬化しにくくなる。

水準測量

既知点の高さから、測定点の高さを定める作業。柱や各階の水平面を作るためには、レベルと標尺を用いて、水準測量を実施する必要がある。

水道直結増圧方式

水道本管から分岐した水道引込み管に増圧給水装置を取り付け、需要家に給水する方式。水

道直結直圧方式よりも高い階まで給水できる。停電時には、給水が不可能になる。

水道直結直圧方式

水道本管から分岐した水道引込み管を通して、需要家に直接給水する方式。3 階建て以下の戸建住宅や低層集合住宅の給水に用いることができる。

スイングサッシ

ガラスの回転によって開閉される窓。その性能項目として規定されているのは、開閉力・開閉繰返し・耐風圧性・気密性・水密性・遮音性・断熱性である。

スイングドアセット

パネルの回転によって開閉される扉。その性能項目として規定されているのは、開閉力・開閉繰返し・ねじり強さ・鉛直荷重強さ・耐衝撃性・遮音性・断熱性・面内変形追随性・耐風圧性・気密性・水密性である。

スカラップ

鋼材相互の溶接線が交差する場合において、溶接部の重なりを避けるために、片方の鋼材を切り欠いた部分。応力集中を避けるために設けられる。

スチフナー

ウェブなどの部材の座屈を防止するために、梁のウェブなどに取り付けられる補強材。梁の交点や荷重点にかかるせん断力を、ウェブプレートなどに伝達させる。取付け方向は、水平・鉛直を使い分ける。

ストレッチルーフィング

合成繊維不織布にアスファルトを含浸させて作られた増張り用の防水材。伸張性に優れる。

スプライスプレート

柱や梁の応力を伝達させるために、柱や梁のフランジやウェブを相互にボルト接合する鋼板。

隅肉溶接

溶接する部材間に溝を設けず、部材相互を密着させ、その交点に溶着金属を流し込む溶接方法。

スライディングサッシ

ガラスの移動によって開閉される窓。その性能項目として規定されているのは、開閉力・開閉繰返し・耐風圧性・気密性・水密性・戸先框{かまち}強さ・遮音性・断熱性である。

スライディングドアセット

パネルの移動によって開閉される扉。その性能項目として規定されているのは、開閉力・開閉繰返し・遮音性・断熱性・耐風圧性・気密性・水密性である。

脆性破壊{ぜいせいはかい}

物体に力を加えたとき、塑性変形がほとんど生じずに破壊されること。脆く、延性が小さい物体では、脆性破壊が発生しやすい。

積雪荷重

積雪によって屋根にかかる設計荷重。多雪区域では、30N/m^2 の長期荷重として扱われる。それ以外の区域では、20N/m^2 の短期荷重として扱われる。

石灰岩
堆積岩の一種。加工しやすいが、耐水性に劣る。

設計 CBR
路床の支持力を示す指標。アスファルト舗装の路床の設計 CBR は、3 以上とする。

設計震度
どの程度の地震力に耐えられるかを示す指標。設計用地震荷重を定めるために使用される。設計震度は 0.3（震度 6 弱の加速度に耐えられる程度）とする場合が多い。しかし、煙突などのように剛性が急変する構造物では、設計震度を大きくしなければならない。

石膏ボード
骨材が含まれた石膏{せっこう}の芯を、厚紙で挟んで作られた板。最も一般的な内装下地材である。安価であり、断熱性・耐火性に優れるが、耐水性に劣る。

絶対湿度
乾き空気 1kg に含まれている水蒸気の質量。水分量が変わらなければ温度が変化しても、絶対湿度の値は変化しない。

繊維強化セメント板
大波形の化粧スレート板で作られた屋根材。小波形の化粧スレート板よりも曲げ破壊荷重が大きい。

せん断破壊
せん断力を受けた部材が破壊されること。柱や梁などの構造物は、建築物そのものの壊滅的破壊を避けるため、地震時などにおいて、せん断破壊よりも先に曲げ降伏が生じるように設計しなければならない。

せん断補強筋比
部材中に含まれているあばら筋または帯筋の割合。「せん断補強筋比＝あばら筋または帯筋の断面積÷コンクリートの断面積」である。壁板のせん断補強筋比は、直交する各方向について、それぞれ 0.25%以上とする。

せん断力
梁などの部材において、中心軸に直交する方向に生じ、部材を切断するように働く力。

全天空照度
直達日射を除いた天空日射による地表面の照度。

潜熱
物体の温度を上昇させるためではなく、物質の状態を変化させる（固定を液体にする・液体を気体にする）ために消費される熱。

全熱交換器
排気中の空気に含まれる顕熱と潜熱を同時に回収して再利用する装置。

潜熱負荷
水蒸気によって室内で発生する熱。外気や人体による熱負荷は、水分の出し入れがあるので、顕熱負荷と潜熱負荷の両方を発生させる。

層間変位

地震や風などにより水平応力を受けた建築物に生じる､上下 2 層間における水平変位量の差。

早強ポルトランドセメント

水和作用を促進する混和剤を添加したセメント。養生日数は短縮できるが、施工時の発熱量が大きい。

相対湿度

飽和水蒸気量に対する水蒸気量の割合を百分率で表した値。一般的な意味での｢湿度｣はこの値である。水分量を変えずに温度が高くなると、飽和水蒸気量が増大するため、相対湿度の値は低くなる。

阻集器{そしゅうき}

油脂などの汚水処理が困難な物質や、プラスターなどの配管を詰まらせる物質を、浮上または沈設させることで、排水中から除去する水槽型の装置。

塑性変形

材料にかかっている応力を取り去っても、材料の形が元に戻らずに残留する変形。

第一種機械換気

給気側・排気側の両方に送風機を設けて機械給気・機械排気とする換気方式。送風機の設定により、室内の正圧・負圧を変えることができる。駐車場・厨房などで採用されている。

第三種機械換気

排気側のみに送風機を設けて自然給気･機械排気とする換気方式。室内は負圧になる。便所・台所・浴室などで採用されている。

耐震壁

地震力によって生じる応力に抵抗するための壁。設計上は、耐力壁として扱われる。

堆積岩

川を流れてきた砂などが堆積し、押し固められることにより作られる岩石。

タイトフレーム

金属製折板屋根の施工において、梁と折板との固定に使用する部品。その使用箇所により、ボルト付きタイトフレーム･一般用タイトフレーム･端部用タイトフレームに分類されている。

第二種機械換気

給気側のみに送風機を設けて機械給気・自然排気とする換気方式。室内は正圧になる。手術室・ボイラー室などで採用されている。

大理石

変成岩の一種。光沢があり美観性に優れるが、耐酸性・耐水性・耐火性に劣る。

耐力壁

構造計算において有効な壁。地震や風による応力に抵抗できる構造である。

多孔質吸音材

グラスウールなどの軟らかく多孔質な材料で造られた吸音材。高音域の音を吸収しやすい。

タックコート
舗装工事において、アスファルト混合物層を一体化させるため、基層上に 0.3ℓ/m²～0.6ℓ/m² 程度のアスファルト乳剤 PK-4 を散布すること。

垂れ壁
高い位置だけにある壁。天井から吊り下がっている。防煙などのために設けられる。

単位水量(W)[kg/m³]
1m³のコンクリートを造るために必要な水の質量。

単位セメント量(C)[kg/m³]
1m³のコンクリートを造るために必要なセメントの質量。

単一ダクト方式
温風と冷風を同一のダクトで送風する空調方式。送風ダクトは１本となる。

短期荷重
長期荷重に、地震・風などによって一時的にかかる荷重を加えた値。

断根式根回し
根回しを行った後、根鉢から突出している側根を切り落とすこと。キンモクセイ・サザンカなどのように、浅根性または非直根性の樹木を移植するときに採用される。

単純梁
片側がヒンジ支点、もう片側がローラー支点の梁。

弾性変形
材料にかかっている応力を取り去れば、材料の形が元に戻る残留しない変形。

単層ビニル床タイル
ひとつの層だけで作られたビニル床タイルのうち、バインダーの含有量が 30%以上のもの。

単層フローリング
無垢材だけで構成された木製の床。フローリングボード・フローリングブロック・モザイクパーケットなどの総称である。

短柱
断面の大きさに比較した丈が短い柱。せん断破壊されやすい。腰壁や垂れ壁は、構造的には短柱である。スリットを入れて座屈を防止することが一般的である。

断面係数(Z)[cm³]
断面二次モーメントを、その中心軸から上下縁までの距離で割った値。「長方形梁の断面係数(Z)＝梁幅(b)×梁高(h)²÷6」である。

断面二次モーメント(I)[cm⁴]
梁などの構造物の曲げ剛性を表す指数。構造物の断面形状により決定される。「長方形梁の断面二次モーメント(I)＝梁幅(b)×梁高(h)³÷12」である。「円形梁の断面二次モーメント(I)＝π×梁直径(d)⁴÷64」である。

地中電線路
地中に埋設された電力ケーブル。ビニル電線を地中に埋設してはならない。

中空層

二重壁の間にある空間。空気は物体よりも熱を通しにくいので、断熱効果が得られる。中空層の厚さは、20mm～30mm とすることが望ましい。

昼光率

自然光のみを取り入れた室内の明るさを示す指標。「室内のある点における昼光率＝室内のある点における天空光による照度÷屋外の全天空照度」である。

中性帯

温度差による自然換気の場合に、室内外の圧力差が 0 となる垂直方向の位置。中性帯に換気口を設けても、圧力差がないので自然換気はほとんど発生しない。

中庸熱ポルトランドセメント

発熱量が少ないセメントを用いたコンクリート。初期強度には劣っているが、水和熱の発生量が少ないので、マスコンクリートの材料として用いられる。

長期荷重

柱・梁・床・屋根などの構造部材自体の重量によって常時かかっている固定荷重。

直接基礎

杭を施工せず、基礎スラブで地盤反力・水圧などを直接受け止める基礎。基礎スラブの形式により、フーチング基礎とべた基礎に分類される。

直達日射

大気や雲による散乱を受けず、太陽から地表まで直接到達する日射。

通気管

排水管内の空気を流通させて換気を行い、下水を円滑に流下させるための排気管。通気管の末端は、屋根から 20cm 以上立ち上げる。また、悪臭による影響を軽減するため、他の開口部から水平距離にして 3m 以上離すか、他の開口部よりも 600mm 以上高くまで立ち上げる。

通気緩衝シート

塗膜防水層の破断や膨れを低減させるために、防水下地に張り付けられるシート。

低圧

送電電圧や受電電圧が、直流電力では 750V 以下、交流電力では 600V 以下であること。

低圧ナトリウムランプ

管内に封入されたナトリウム蒸気を放電させて発光する照明設備。高効率で、光の透過性に優れるが、演色性に劣る。トンネル照明として用いられる。

TMCP 鋼材

炭素の含有量を低下させて熱加工制御を行うことで、溶接性と塑性変形性能を高めた鋼材。

T 継手

2 つの部材を T 型に溶接した継手。フランジとウェブとの接合部などで用いられる。

定風量単一ダクト方式

すべての室に対して一定量の送風を行う空調方式。送風量が多く、空気清浄度も高くなるが、各室の温度・湿度を個別に調整することはできない。

鉄筋比
部材断面中に含まれている主鉄筋断面の割合。「鉄筋比＝主鉄筋の断面積÷コンクリートの断面積」である。床スラブの鉄筋比は、0.2%以上とする。梁の鉄筋比は、0.4%以上とする。柱の鉄筋比は、0.8%以上とする。

転圧
舗装を締め固めること。アスファルト舗装の転圧は、「継目転圧」→「初転圧」→「二次転圧」→「仕上げ転圧」の順に行われる。

天空日射
大気や雲などで一度反射・散乱されてから地表に放射される日射。

透過損失
壁の向こう側に通過した音が、壁などに入射した音に比べて、音圧レベルに換算して何デシベル少なくなったかを表した値。壁の透過損失は、「透過損失＝log(壁の単位体積あたりの質量×音の周波数)」で求めることができる。

透過率
壁などに入射した音が、反射も吸収もされずに、壁の向こう側に貫通する割合。

凍結融解作用
寒中に施工したコンクリートの空隙中に水が入り込み、凍結による膨張と融解による収縮が繰り返されたために、コンクリートが劣化すること。

トータルステーション(TS)
1 回の視準で水平角・鉛直角・斜距離を同時に観測できる測量機器。柱の建込みにおける鉛直性測定・距離測定などで用いられる。

特別高圧
送電電圧や受電電圧が、直流電力・交流電力のどちらであっても、7000V を超えること。

独立フーチング基礎
ひとつの基礎スラブでは 1 本の柱だけを支える直接基礎。

トラス構造
短い部材の節点をボルト接合し、骨組とした構造。三角形をひとつの単位として部材が組み立てられている。各部材が受ける軸方向力は、圧縮力・引張力のどちらか一方だけになる。

トラップ
排水管からの悪臭を室内に入れないようにするための設備。サイホン式トラップと非サイホン式トラップに分類される。

トラップ桝
悪臭が上流側に流れ込まないようにするための桝。非サイホン式トラップの一種。汚水管と雨水管を合流させるときの合流桝は、トラップ桝としなければならない。

ドロマイトプラスター
白雲石の粉末から成る塗装材料。気硬性で粘りが強いため、糊を使用せずに塗布できる。

2 管式配管

冷温水の往き管・冷温水の還り管から構成されるファンコイルユニット。温水と冷水を同時に送ることができないため、4 管式配管と比べて、室内環境の制御性に劣る。

二重ダクト方式

温風と冷風を別々のダクトで送風する空調方式。送風ダクトは 2 本となる。単一ダクト方式よりも精密な温度調整が可能である。精密製品の製造を行うクリーンルームなどのように、高い空気清浄度を求められる場所で採用される。

2 成分形シーリング材

基材と硬化剤を施工直前に機械混合して使用するシーリング材。混合の際、シーリング材に空気が入らないように注意しなければならない。

2 成分形低モジュラス形シリコーン系シーリング材

伸縮性・耐光接着性に優れたシーリング材。ガラス・カーテンウォール・金属パネル回りの目地に用いられる。

2 成分形変成シリコーン系シーリング材

耐候性・耐久性に優れたシーリング材。プレキャストコンクリートカーテンウォールの部材間の目地や、金属笠木などの目地に用いられる。

2 成分形ポリウレタン系シーリング材

汚染を発生させにくいシーリング材。ALC パネルの目地などに用いられる。耐熱性・耐候性には劣るため、金属パネル・金属笠木などの目地に用いることはできない。

日照時間

雲などの影響を考慮して、その日に実際の日照があった時間。可照時間と区別して考える。

日照図表

冬至などの特定の日において、対象となる建築物が、ある地点への日射に対してどのような影響を及ぼすかを描いた図表。建築物による影が、時間の経過によってどのように動くかを知ることができる。

二面摩擦

3 枚の板を高力ボルトで接合したときに生じる摩擦面。中央にある板は、その両面に摩擦力を受ける。

ネガティブフリクション

周辺地盤の圧密沈下によって支持杭の周面に負の摩擦力が生じること。大きなネガティブフリクションを受けた支持杭は、圧縮力の増大によって破損することがある。

熱線吸収ガラス

微量のコバルトなどを添加したガラス。日射を吸収できるので、冷房負荷が少なくなる。

熱損失係数

室内の熱の逃げにくさを表し、建築物の断熱性能評価の指標となる。熱損失係数が小さい建築物は、断熱性能が高い。

熱伝導抵抗
厚さのある物体における熱の通しにくさ。「熱伝導抵抗＝熱伝導比抵抗×物体の厚さ」である。
熱伝導比抵抗
熱伝導率の逆数。熱伝導比抵抗が大きい材料は、熱を通しにくい。
熱伝導率
物体相互間における熱の伝わりやすさ。熱は、高温の物体から低温の物体へと伝わる。
熱放射
熱が電磁波として伝わる現象。この現象は、熱の移動に媒体を必要としないため、真空中でも発生する。
根鉢
樹木の根が土に張り巡らされている部分。
根鉢の上端
樹木が植えられている地面の高さ。
根巻き
樹木を移植するとき、鉢土の崩れを防止するため、鉢土の周囲を筵{むしろ}などで被覆し、その表面を縄や布などで締め付けること。根巻きの際に掘削する根鉢は、鉢径を樹木の根元幹径の 4 倍～5 倍とし、深さを樹木の根元幹径の 2 倍～5 倍とする。
根回し
樹木を移植するとき、細根を残したまま、根鉢の周囲の土ごと掘削すること。
粘土瓦
粘土を焼成して作られた一般的な屋根材。その形状により、J 形・S 形・F 形に分類されている。
粘板岩
変成岩の一種。吸水性が小さく、耐久性や耐火性に優れる。
のど厚
溶接のルートが最小となる厚さ。
パーティクルボード
木材などの小片を接着剤で熱圧成形して作られた板。屋根・壁・建具などに用いられる。
パーライト
真珠岩や黒曜石を粉砕し、急激に加熱膨張させて作られる軽量の骨材。セメントやプラスターに混合することで、吸音性や断熱性に優れた仕上げ材を造ることができる。
倍強度ガラス
表面を熱処理して風への耐性を 2 倍に高めたガラス。開口面積が大きい部位で使用される。
排水性アスファルト舗装
降雨を路面から浸透させて排水することができるアスファルト舗装。雨天時における車両のスリップを防止し、夜間における路面の視認性を向上させることができる。

排水桝
排水管内を維持管理するために設けられる桝。排水管の直線部においては、管径の 120 倍以下の間隔で設けなければならない。

排水横枝管
勾配を付けて横方向に施工される排水管。排水横枝管の最小勾配は、管径が 65mm 以下なら 50 分の 1、管径が 75mm または 100mm なら 100 分の 1、管径が 125mm なら 150 分の 1、管径が 150mm 以上なら 200 分の 1 とする。

バインダー
アスファルト系または樹脂系の接着剤。単に接着剤のことをバインダーと呼ぶ場合もある。アスファルト舗装や床タイルの接着剤として用いられる。

バスダクト
大電流が流れる幹線を納めるためのダクト。大型施設の幹線電路として用いられる。

パッケージユニット
家庭用ルームエアコンのように、ケーシング内にすべての空調機能が収納された空調設備。

梁貫通孔
管などを通すため、梁に開けた孔。梁のせん断強度が低下するので施工には注意が必要である。梁貫通孔の孔径は、梁成（梁の高さ）の 3 分の 1 以下とする。梁貫通孔の位置は、梁成の中心とする。梁貫通孔の外周から柱の側面までの水平距離は、梁成の 1.5 倍以上とする。

張出し梁
単純梁のローラー支点よりも先まで延びている梁。ローラー支点から先は固定されていないため、梁の先端が自由に動く。

ハロゲンランプ
窒素やアルゴンを満たしたガラス管内に、微量のハロゲンガスを加えた照明設備。フィラメントを高温にしても炭化しないため、高輝度で演色性が良い。店舗の照明やスポットライトとして用いられる。

反力
梁や柱の支点に加わっている力に対して、反対方向に同じだけの力が働くこと。

PF 管
配線を納めるための合成樹脂管の一種で、自己消火性がある。コンクリートへの埋設配管・天井などでの露出配管のどちらにも使用可能である。

引下げ導線
直撃雷による電流を地面に逃がすための導体。避雷設備の一部である。鉄筋コンクリート構造物の鉄筋や、鉄骨構造物の鉄骨は、引下げ導線として使用できる。

非サイホン式トラップ
容器そのものがトラップの機能を有する設備。管を曲げて作られるサイホン式トラップと区別される。椀{わん}形トラップとも呼ばれる。

非耐力壁
構造計算において無効な壁。単に仕切りとして用いられており、応力に抵抗できる構造ではない。

引張強度
鋼材の強度を表す値。引張試験により求められる。「鋼材の引張強度＝引張試験で鋼材が破断したときの力÷引張試験前における鋼材の断面積」である。

引張鉄筋比
部材中に含まれている引張鉄筋の割合。「引張鉄筋比＝引張鉄筋の断面積÷コンクリートの断面積」である。引張鉄筋比が大きすぎると、付着割裂破壊が生じやすくなる。

必要換気量
室内環境基準を満たすために、外気を取り入れなければならない量。「必要換気量(Q)[m^3/h]＝室内の二酸化炭素発生量[m^3/h]÷(室内の許容二酸化炭素濃度[m^3/m^3]－外気の二酸化炭素濃度[m^3/m^3])」である。

ヒューム管
遠心力鉄筋コンクリート管のこと。下水道に使用されている。「ヒューム」とは、この管を発明した人の名前である。

避雷設備
建築物への直撃雷による電流を避雷針に集約し、地面に逃がすための設備。避雷設備の保護レベルは、構造物の重要度に応じて選択する。

ヒンジ支点
自由に回転できるが、鉛直方向や水平方向には移動できない支点。ヒンジ支点には、鉛直反力と水平反力の 2 つの反力が作用する。

ファンコイルユニット
中央制御方式の空調設備が設けられた大型施設において、各室に配置される小型の空調設備。温水と冷水の流れを調整することにより、各室の温度・湿度を個別に制御することができる。

VAV 方式
変風量方式の略称。そのほとんどは単一ダクト方式である。

フィラー
コンクリートの材料分離を抑制するために、アスファルト混合物中に混合される石粉。また、リベット接合の段差を埋めるために使用される薄板も、フィラーと呼ばれている。

風圧係数
建築物にかかる局部的な風圧力の算定基準となる比例係数。「風圧係数＝静止外圧を基準とした風圧力÷建物による影響を受けていない外部風の速度圧」である。

風圧力[N/m^2]
建築物外壁などの面積 $1m^2$ あたりに作用する風による圧力。「風圧力＝建築物に作用する風の速度圧×国土交通大臣が定めた風力係数」である。なお、局部的な部材に作用する風圧力を算定したいときは、風力係数の代わりに風圧係数を用いる。

フーチング基礎
柱にかかる力を分散して地盤に伝える直接基礎。フーチング基礎は、基礎梁で相互に連結する。柱の支え方により、独立フーチング基礎と複合フーチング基礎に分類される。

風力係数
建築物にかかる全体的な風圧力の算定基準となる比例係数。「風力係数＝外圧係数－内圧係数」であるが、国土交通大臣が建築物の形状ごとに定めた値を使用することが一般的である。

不活性ガス消火設備
二酸化炭素や窒素などを放出する消火設備。酸素濃度の低下による窒息効果で消火する。消火剤が周囲を汚しにくいため、博物館などに設けられている。

複合フーチング基礎
ひとつの基礎スラブで複数本の柱を支える直接基礎。

複合フローリング
無垢材{むくざい}の表面に、遮熱材・遮音材・カラーシートなどを張った木製の床。基本的には、単層フローリングに該当しないフローリングは、複合フローリングである。

複層ガラス
2 枚の板ガラスの間に乾燥空気層を設けて密封したガラス。結露を防止できる。

複層ビニル床タイル
複数の層を重ねて作られたビニル床タイル。耐水性・耐薬品性・耐磨耗性に優れるが、熱による伸縮が大きい。

付着割裂破壊
コンクリートと鉄筋との付着応力が許容付着応力を超えることにより、鉄筋から剥離したコンクリートが鉄筋に沿ってひび割れること。

普通合板
単板を重ねて張り合わせた合板のうち、塗装などが施されていないもの。JAS 規格（使用する接着剤）により、断続的に湿潤状態となる場所で使用できる 1 類と、時々湿潤状態となる場所で使用できる 2 類に分類されている。

普通ボルト
ボルト軸でせん断力に抵抗するボルト。普通ボルト接合では、ボルト孔に応力が集中する。

不定形シーリング材
施工時にペースト状となるシーリング材。

不同沈下
地盤特性の違いにより、建築物の各所に一定ではない沈下が生じること。不同沈下を受けた建築物には、傾斜や破損などの不具合が生じる。

部分溶込み溶接
2 つの部材を溶接するとき、接続部の一部に未溶接部分を残すこと。トラス橋の箱桁を閉じるときなどに用いられる。

フライアッシュセメント
普通ポルトランドセメントに、フライアッシュ（火力発電所のボイラーから生じる石炭灰）を添加した混合セメント。水和熱の発生量が少ないので、マスコンクリートの材料として用いられる。

プライマー
下地と防水層との接着性を向上させるために使用される塗料。

プライムコート
舗装工事において、雨水の浸透防止、上部アスファルト混合物との一体化などを目的として、路盤上に 1ℓ/m²～2ℓ/m² 程度のアスファルト乳剤 PK-3 を散布すること。

プラスター
石灰・石膏・白雲石などを水と混合して作られる左官材料。漆喰{しっくい}・石膏プラスター・ドロマイトプラスターなどに分類される。

フラッターエコー
向かい合った平行な壁などで、ひとつの音が繰り返し跳ね返されることにより、音が何重にも聞こえる現象。この現象は、鳴き竜とも呼ばれている。

フランジプレート
H形鋼の上下縁に設けられているような鋼板。ウェブプレートで連結されている。

ブレーン値
セメント粒子の細かさを示す比表面積の指標。ブレーン値が大きい早強ポルトランドセメントは、セメントの比表面積が大きく、水和反応が促進されやすいので、養生期間を短くできる。

フレキシブルボード
主原料であるセメントに、石綿以外の繊維を添加して作られた板。密度や強度が大きい。

プレスセメント瓦
セメントと砂を成形した屋根材。無塗装で使用されるものと、塗装されて使用されるものがあるが、無塗装のものは耐水性に劣る。

フロアダクト
床に埋め込まれた配線用のダクト。床暖房などに用いられる。その使用電圧は、300V 以下とする。

フローティング基礎
スラブの基礎底面で、建物重量と排土重量を釣り合わせる基礎。排土によって生じる浮力で建築物を支えている。支持層が深すぎて杭基礎が施工できない地盤で採用される。

フローリングブロック
ひき板を 2 枚以上並べて接合した単層フローリング。

フローリングボード
1 枚のひき板で構成された単層フローリング。

粉末消火設備
粉末状の消火剤を放射する消火設備。粉末で燃焼物を覆う窒息効果と、粉末の熱分解による

冷却効果で消火する。

閉鎖型スプリンクラーヘッド

火災による熱を受けたヘッドが溶融して開放され、個々に放水を開始する消火設備。事務所ビルや病院などで使用されている。

べた基礎

柱にかかる力を単一の基礎スラブで地盤に伝える直接基礎。格子梁を併用する場合もある。

ペリメータゾーン

室内の外周部（窓などの近辺）。外部環境による温度変化が大きい。

変成岩

火成岩や堆積岩が、地殻変動などによる熱や圧密などを受け、その性質が変成することにより作られる岩石。

変風量単一ダクト方式

室ごとに送風量を変化させることができる空調方式。各室の温度・湿度を個別に調整することができる。

ポアソン比

部材が軸方向に力を受けて変形したとき、軸と直交する方向に生じる変形量の割合。コンクリートのポアソン比は、0.2 程度である。すなわち、コンクリートの軸方向に圧縮力が加わって 1mm 縮んだ場合、そのコンクリートの軸と直交する方向は 0.2mm 膨らむ。

飽和水蒸気量

$1m^3$の空気が含むことのできる最大の水蒸気量。温度が高いほど多くなる。

補強布

塗膜防水において、傾斜面からの防水材の垂れ下がりを防止するために使用される布。

保護レベル

避雷設備の受雷部における直撃雷からの保護効率。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの 4 種類に分類されている。その保護効率は、保護レベルⅠでは 98%、Ⅱでは 95%、Ⅲでは 90%、Ⅳでは 80%である。

補色

ある色に対して、混合すると無彩色になる色。この 2 色の関係を、補色という。マンセル色相環において、対向する 2 つの色は、補色である。

ホモジニアスビニル床タイル

バインダーの含有量が 30%以上の床タイル。複層である場合が多い。

ポリマー改質アスファルト

ポリマーを混合して粘性を高めたアスファルト。ポリマーの添加量により、Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型・H型に分類される。

ポンプ直送方式

受水槽に貯留した水を、圧力水槽や高置水槽を介さずに、ポンプを用いて需要家に直接給水する方式。停電時には、給水が不可能となる。

埋設給排水管

地中に埋められた給排水管。埋設された給水管と排水管が隣接する場合は、給水管と排水管との水平距離を 500mm 以上とし、給水管を排水管よりも上に配管しなければならない。

曲げ応力度(σ)[N/mm²]

梁などの構造物が荷重を受けた場合に、その上下縁に生じる引張応力と圧縮応力。対称となる断面では、引張応力度や圧縮応力度の値は等しい。「曲げ応力度(σ)[N/mm²]＝曲げモーメント(M)[N･mm]÷断面係数(Z)[mm³]」である。

曲げモーメント(M)[N･m]

部材を曲げる方向に作用するモーメントに対する応力。「曲げモーメント(M)[N･m]＝部材に加わる荷重(P)[N]×支点から荷重が加わっている位置までの距離(ℓ)[m]」である。

摩擦杭

支持地盤に杭を到達させず、地面と杭との摩擦力だけで建物を支持する杭。

マスキング効果

人がある音を聴くときに、別の音（雑音）が同時に聞こえると、聴きたい音（信号音）が聞こえにくくなる現象。バックミュージックなどに利用されている。マスキング効果は、信号音と雑音の周波数が近いほど大きくなる。また、高い周波数の音は、低い周波数の音に妨害されやすい。

マスコンクリート

部材断面の最小寸法（一辺の長さ）が 80cm 以上となる大型構造物用のコンクリート。

マンセル記号

色の色相・明度・彩度を表す記号。「色相　明度／彩度」として、「5PR 3/8」のように表記される。この表記例は、色相が赤紫の基本色、明度が 3、彩度が 8 であることを表している。

マンセル色相環

補色の関係にある 2 つの色相を相対する位置に描いた環状の図。

幹周

根鉢の上端から 1.2m の高さにおける幹の周長。この高さにおいて幹が複数本ある場合は、各幹について周長を測定し、その合計の 70%を幹周とする。

水噴霧消火設備

水を霧状に噴射する消火設備。水による冷却効果と、水蒸気による窒素効果で消火する。

明度

色の明るさを示す指標。純黒を 0、純白を 10 とし、その間を 10 段階に分割して表す。

メタルハライドランプ

水銀蒸気中に金属ハロゲン化物を封入した照明設備。水銀ランプよりも高効率で、演色性も良い。スポーツ施設や工場などの照明として用いられる。

メチルセルロース

水溶性の粉末材料。セメントモルタルに混合することで、接着力強化・保水性向上・作業性向上などの効果が見込める。

モーメント(M)[N･m]

ある点に作用する回転力。「モーメント(M)[N･m]＝荷重(P)[N]×荷重点までの距離(ℓ)[m]」である。単に「モーメント」と書かれた場合は、ある点の回転力を表す。「曲げモーメント」と書かれた場合は、部材の回転力に対する応力を表す。

モザイクパーケット

小さなひき板を寄せ集めて構成された単層フローリング。デザイン性に優れる。

モジュラス

シーリング材の弾性率を示す指標。モジュラスが高いほど、強度は大きいが、伸縮への対応は難しくなる。シーリング材は、高モジュラスの H 型(HM)と低モジュラスの L 型(LM)に分類されている。鉄筋コンクリートの目地材は、高モジュラスとする。ALC パネルの目地材は、低モジュラスとする。

ヤング係数

材料の変形に対する抵抗性を示す係数。ヤング係数が大きい材料は、圧縮されても変形しにくい。部材に応力(σ)[N/mm²]を作用させると、その応力(σ)[N/mm²]に比例したひずみ(ε)[単位なし]が生じる。このときの比例定数がヤング率(E)[N/mm²]である。すなわち、「応力(σ)＝ヤング率(E)×ひずみ(ε)」である。コンクリートのヤング係数は、鋼材のヤング係数の 10 分の 1 程度である。すなわち、鋼材が 1mm 変形するのと同じ圧縮力を受けたコンクリートは、10mm 変形する。

4 管式配管

冷水の往き管・温水の往き管・冷水の還り管・温水の還り管から構成されるファンコイルユニット。温水と冷水を同時に送ることができるため、室内環境の制御性に優れる。

ラーメン構造

部材の節点を溶接により剛接し、骨組とした構造。剛接した点に曲げモーメントを受けても、節点の交角は変化しないため、構造全体を同じように（交角を変えずに）変形させることができる。

ライティングダクト

配線を納めるための匚型のダクト。壁や天井などの造営材を貫通して設置してはならない。

リノリウムシート

あまに油・松脂・コルク粉・木粉・炭酸カルシウムなどを練り込み、麻布を裏打ちした床シート。

粒度調整砕石

粒度分布が良好な砕石。2 種類以上の粒径の砕石が混合されている。粒度調整砕石から成る路盤は、様々な粒径の骨材が混ざっているため、敷均しや締固めが容易である。

隣棟間隔{りんとうかんかく}

隣接する建築物相互の内法間隔。日照・通風・プライバシーなどを確保するためには、ある程度の隣棟間隔が必要である。日照を確保するため、緯度が高い地域ほど、隣棟間隔を大きくしなければならない。

ルート
グルーブ溶接においては、2 つの部材が最も接近した部分のこと。隅肉溶接においては、2 つの部材の交線のこと。

ルート間隔
2 つの部材を溶接するために配置した場合において、最も接近した部分（ルート）の長さ。グルーブ溶接では、開先底部の間隔に等しい。

連結散水設備
地下街などのように、火災が発生すると煙が充満して消火活動が困難になる場所に設置される設備。ポンプ車を利用して送水口から放水口まで水を運搬する。この設備は、消火設備ではなく、消火活動上必要な施設に分類される。

連結送水管
消防隊が放水口にホースを接続して消火活動を行うための設備。ポンプ車を利用して双口形送水口から放水口まで水を運搬する。この設備は、消火設備ではなく、消火活動上必要な施設に分類される。

Low-E 複層ガラス
ガラスの乾燥空気層側に特殊金属をコーティングした複層ガラス。断熱性が高まるため、冷暖房負荷が少なくなる。

ローラー支点
自由に回転でき、水平方向に移動できるが、鉛直方向には移動できない支点。ローラー支点には、鉛直反力は作用するが、水平反力やモーメント反力は作用しない。

ロックウール
玄武岩・石灰・高炉スラグなどで作られた繊維質の材料。断熱性・吸音性に優れる。

ロックウール化粧吸音板
主原料であるロックウールに、結合材や混和材を加えた後、表面を化粧加工した板。

露点温度
湿り空気の温度を徐々に下げていったとき、水蒸気量が飽和水蒸気量を上回る温度。湿り空気が露点温度よりも低温の物体に触れると、飽和水蒸気量を上回った分の水蒸気が水として抽出され、物体の表面に結露が生じる。

躯体工事

アースドリル工法

アースドリルで掘削を行い、地表面からある程度の深さに達したら表層にケーシングを挿入し、ベントナイト溶液で孔壁の崩壊を防ぎながらドリリングバケットで掘削した後、鉄筋篭を挿入して場所打ち鉄筋コンクリート杭を造る工法。

アースドリル工法のスライム処理

1 次スライム処理として、底ざらいバケットでスライムを除去する。鉄筋篭の挿入後、2 次スライム処理として、トレミー管内に設置したエアリフトポンプでスライムを除去する。

Ｉ形鋼

2 枚のフランジと 1 枚のウェブから作られる形鋼のうち、フランジの厚さが端にいくほど薄くなるもの。このような構造のフランジは、テーパー構造と呼ばれている。

あき重ね継手

上下階（縦方向）の鉄筋位置がずれている場合に、その鉄筋を相互に接続しない継手のこと。コンクリート中に埋め込まれている鉄筋は、ずれが一定以下である限り、この状態でも応力を伝達できるので、折り曲げて接続する必要はない。

圧砕機

コンクリート版などを掴み、油圧をかけて破砕する建設機械。解体工事で使用される。

圧接端面保護剤

加工後の圧接端面に塗布する薬剤。圧接端面の加工を、圧接作業の当日よりも前に行う場合に用いられる。

圧接継手

鉄筋の接合部に圧力を加えながら、ガスによる加熱を行うことで接合する継手。ガス圧接継手とも呼ばれる。

圧接継手の施工における留意点

圧接面相互の隙間は、2mm 以下とする。配筋するときは、隣接するガス圧接継手との間隔を 400mm 以上とする。圧接鉄筋の縮み代は、鉄筋径の 1 倍～1.5 倍(1d～1.5d)を見込んでおく。

圧送負荷

コンクリートポンプを用いてコンクリートを圧送する際、コンクリートポンプにかかる負荷。圧送に使用する配管の水平換算長が長いほど大きくなる。「圧送負荷(P)[N/mm²]＝水平管の管内圧力損失(K)[N/mm²/m]×（直管の長さ(L)[m]＋ベント管の長さ(B)[m]×3＋テーパー管の長さ(T)[m]×2＋フレキシブルホースの長さ(F)[m]×2）＋重力加速度を考慮したコンクリートの単位容積質量(W_0)[kN/m³]×圧送高さ(H)[m]×10^{-3}」である。この算定式をまとめると、「$P=K(L+3B+2T+2F)+W_0H\times10^{-3}$」となる。

あばら筋

鉄筋コンクリート造（RC 造）の梁において、主鉄筋を取り囲むように配置される補強筋。主鉄筋の位置を保持し、梁のせん断耐力を補強するために設けられる。

アルカリシリカ反応
セメント中のアルカリ成分と骨材中のシリカ成分が接触して化学反応を起こし、骨材中のシリカ成分が膨張して硬化後のコンクリートがひび割れ、コンクリートが劣化する現象。

アルカリシリカ反応性試験
モルタルバー法または化学法を用いて、コンクリートの膨張性を調査し、そのコンクリートにアルカリシリカ反応が生じるかどうかを調べる試験。アルカリシリカ反応が生じない骨材は、区分 A(無害)と判定され、そのまま使用できる。アルカリシリカ反応が生じる骨材は、区分 B(無害でない)と判定され、使用時には対策が必要になる。

一軸圧縮試験
粘性土から成る供試体を上下から圧縮することで、粘性土地盤のせん断強さを求める試験。

ウェブ
H形鋼やＩ形鋼の上下縁のフランジを接続する鋼板。ウェブプレート・腹板とも呼ばれる。

ウェルポイント工法
圧力水を噴射して集水管となるウェルポイントを砂質地盤中に埋め込んだ後、ウェルポイント内に流入した地下水を真空ポンプで汲み上げて地上に排水し、地下水位を低下させる強制排水工法。

裏当て金
溶接底部から溶着金属が流れ落ちることを防ぐために、開先底部に取り付けられた金属板。

裏はつり
両面から溶接を行う完全溶込み溶接において、表面を溶接した後に、溶接部の裏面に生じる溶接不足の部分を、均一にするために除去してから、その裏面を溶着金属で補強すること。

上端筋{うわばきん}
梁の断面の上部に配置された鉄筋。

エアリフトポンプ
スライムを吸い上げるために使用される真空ポンプ。

液性限界(w_L)
土に水を加えて含水比を大きくしていったとき、土が液性を示す最小の含水比。

H形鋼
2枚のフランジと1枚のウェブから作られる形鋼のうち､フランジの厚さが一定であるもの。

エレクションピース
柱を相互に溶接する部分において、その溶接間隔を保つために用いられる仮設鋼板。すべての接合孔を、高力ボルトで締め付ける。

塩化物イオン量
レディーミクストコンクリートの塩化物含有量の指標。その塩化物含有量は、塩化物イオン量に換算して 0.3kg/m³ 以下でなければならない。

エンドタブ
開先溶接した母材の両端を溶接欠陥から保護するために、母材に溶接される溶接部補強材。

溶接ビード（1 回の溶接で作られた部分）の始端と終端には、溶接欠陥が生じやすい。

大引材

構台や一階床の脚柱を連ねた横架材。構台の基礎となる。

オールケーシング工法

ケーシングチューブとなる鋼管で孔壁を保護し、ハンマーグラブを用いてケーシングチューブ内の土を掘削した後、鉄筋篭を挿入して場所打ち鉄筋コンクリート杭を造る工法。

オールケーシング工法のスライム処理

1 次スライム処理として、沈積バケットやハンマーグラブで静かにスライムを除去する。スライムの発生量が最も少ない工法なので、2 次スライム処理は不要である。

オールケーシング工法の施工における留意点

コンクリート打設時におけるケーシングチューブ引上げ時には、ケーシングチューブの貫入量は、その先端がコンクリート打設面よりも常に 2m 以上深くなる程度とする。

帯筋{おびきん}

鉄筋コンクリート造（RC 造）の柱において、主鉄筋の周囲に一定間隔で配置される補強筋。柱のせん断耐力を補強し、圧縮強度や靭性を高めるために設けられる。

開先

溶接する部材の相互間に設けた溝。ここに溶着金属を流し込む。

確認ピン

耐火被覆材の吹付け厚さなどを測定するときに使用されるピン。

加熱養生

養生上屋を設けてヒーターなどで加熱する養生方法。寒中コンクリートの加熱養生を行うときは、表面が乾燥しないよう、湿潤養生としなければならない。

釜場排水工法

掘削底面に設けた深さ 1m 程度の溝（釜場）に地下水や湧水を集め、釜場の水を水中ポンプで排水する重力排水工法。

仮ボルト

鉄骨などを本締めまたは溶接するまでの間､鉄骨を仮止めしておくために使用されるボルト。ボルトと溶接の混用接合における仮ボルトの締付け本数は、一群のボルト数の 2 分の 1 程度かつ 2 本以上とする。高力ボルト摩擦接合における仮ボルトの締付け本数は、仮ボルト締めを行うときに使用する一群のボルト数の 3 分の 1 程度かつ 2 本以上とする。

乾式工法

耐火被覆において、被覆材と水を別々のパイプで圧送し、ノズル先端で混合して吹き付ける方法。

完全スリット

地震発生時に構造物の柱が崩壊することを防ぐため､柱や壁の間に設けておく隙間(切欠き)。切欠きの幅は、20mm～40mm とする。切欠きの深さは、壁の全厚と同じにする。切欠きの部分は、必要があればシール材で埋め戻す。

完全溶込み溶接

溶接する部材の相互間に設けた開先に、溶着金属を満たす溶接方法。2 つの部材を完全に接合できるため、溶接部の強度が母材の強度と同等になる。重要部材の接合に用いられる。

寒中コンクリート

日平均気温が 4℃以下の時期に施工するコンクリート。

基準墨

建築物の高さまたは水平位置の基準となる墨。建築物の四隅に打たれている。高さの基準となる陸墨{ろくずみ}と、水平位置の基準となる地墨{じずみ}に分類されている。

既製杭の接合における留意点

鋼管杭やコンクリート杭を接合するときは、その両端を鋼製環で仕上げる。現場での杭の接合は、アーク溶接により行う。

キャップタイ

U字形のあばら筋の上にかぶせられる逆U字形の鉄筋。

強制排水工法

集水した水を真空ポンプで吸い上げる工法。集水は、気圧差を利用して行われる。ウェルポイント工法は、強制排水工法である。

許容応力度

部材が許容できる応力の最大値。応力がその部材の許容応力度を超えると、破壊などのおそれが生じるため、安全性が損なわれる。型枠の構造計算に用いる支保工以外の材料の許容応力度は、長期許容応力度と短期許容応力度の平均値とする。支保工の許容応力度は、鋼材の引張強さの 2 分の 1 と、鋼材の降伏強さの 3 分の 2 のうち、小さい方とする。

許容変形量

部材が許容できる変形量の最大値。型枠の許容変形量は、3mm 以下とする。

杭孔の掘削における留意点

埋込み杭の施工や、場所打ち杭のオールケーシング工法では、杭の先端部を先掘りしすぎないように注意しなければならない。先掘りしすぎると、ボイリングが発生して地盤が乱されるおそれがある。

杭の施工における留意点

既製杭の継手部は、傾斜が 100 分の 1 以内で、杭心のずれが杭径の 4 分の 1 以下かつ 100mm 以下でなければならない。場所打杭の余盛高さは、孔内水を用いる場合は 800mm 以上、孔内水を用いない場合は 500mm 以上とする。

グラウト材

既設構造物と増設構造物との隙間（空隙部）に注入されるセメントミルクなどの充填材。

クラムシェル

グラブバケットを持つショベル系掘削機械。機体よりも低い位置にある軟弱地盤の掘削に適しており、狭い場所でも作業することができる。

クリアランス
梁などの接合部にある間隙（隙間）。溶接時には、適切なクリアランスを確保しておく必要がある。

グリットブラスト
研磨剤として、ショットブラストよりも大きく角張った鋼片を吹き付ける素地調整方法。

クローラ式
足回りに履帯（キャタピラ）が使われている建設機械。牽引性に優れる。接地圧が小さく、不整地でも作業ができる。

計画供用期間
そのコンクリート構造物を使用すると予想される年数。短期（約 30 年）・標準（約 65 年）・長期（約 100 年）・超長期（約 200 年）の 4 つの級に分類されている。計画供用期間が長いコンクリート構造物では、耐久設計基準強度を大きくしなければならない。耐久設計基準強度は、短期なら 18N/mm²、標準なら 24N/mm²、長期なら 30N/mm²、超長期なら 36N/mm² とする。

傾斜ジブ式タワークレーン
クレーン本体を昇降させる機能を備えたクレーンのうち、ジブ（旋回支柱）を傾斜させることができるもの。重い荷物を高い場所まで吊り上げることができる。

建設用リフト
荷物専用の揚重運搬機械。主に長尺の資材を運搬する設備なので、人員を載せてはならない。

高強度コンクリート
水セメント比を小さくし、圧縮強度が 36N/mm² を超えるようにしたコンクリート。高性能 AE 減水剤を用いた高強度コンクリートの練混ぜ開始から打込み終了までの時間は、外気温に関係なく、120 分以内とする。

航空障害灯
夜間飛行する航空機に対し、障害物があることを知らせるための照明。地表または水面からの高さが 60m 以上となる建築物やクレーンには、航空障害灯を取り付けなければならない。

鋼材の曲げ加工における留意点
鋼材の靭性を確保するため、900℃程度の赤熱状態で行う。400℃以下の青熱脆性域で行ってはならない。

鋼製巻尺
目盛が付いた薄い鋼材で作られたテープ。建築工事において、鉄骨部材の 2 点間の距離を測定するために使用される。

構造体強度補正値
調合管理強度の算定において、設計基準強度から割り増しておく値。構造体強度補正値は、セメントの種類・養生中の予想平均気温・供試体の強度のバラツキなどによって異なる。

後退法（解体工事）
前方から後方へ向かって、圧砕機を後退させながら、上階から下階へ向かって、床版を順次

解体する工法。

後退法（溶接工事）

杭の溶接の進行方向を､溶接者が後退していく方向とし､溶接棒を引きながら溶接する工法。

構台

仮設の架台。その使用目的により、乗入れ構台や荷受け構台などに分類されている。

高張力鋼

引張強度が 490N/mm² 以上である鋼材の総称。明確な降伏点を示さないことが多い。

勾配座金

板材の勾配に合わせて用いられる座金。高力ボルトで締め付ける板材に、20 分の 1 を超える勾配がある場合に用いられる。

鋼板巻き工法

曲げ加工を行った鋼板（2 枚の匚形部材の中央部を現場でアーク溶接し、□形に加工した鋼板）を角形柱に巻き付けることで、そのせん断耐力を高める耐震補強工法。柱と鋼板との隙間（空隙部）には、グラウト材を注入する。鋼板の曲げ加工は、その内法半径を板厚の 3 倍以上として行う。鋼板の溶接は、完全溶込み溶接で行う。

高力ボルト

ボルトの上下に配置した 2 枚の板を締め付け、その板の摩擦力で引張力に抵抗するボルト。

高力六角ボルト

トルシア形でない高力ボルトの総称。座金は、軸の上下に 1 枚ずつ設けられている。締付け後にナット面から突き出すねじ山は、1 山～6 山の範囲になければならない。

コンクリートの打込みにおける留意点

コンクリートの打込み速度は、1 時間につき 20m³～30m³ 程度とする。

左官工法

鉄骨面に鉄網を張ってからモルタルを塗布する耐火工法｡施工継目のない耐火被覆を施せる。

三軸圧縮試験

砂質土から成る供試体を軸方向と各側面の 3 方向から圧縮することで、砂質土地盤のせん断強さを求める試験。側圧を受ける粘性土地盤のせん断強さを求めるときにも行われる。

サンドブラスト

砂などの骨材を吹き付けるブラスト処理方法。素地調整力が小さいため、ボルト摩擦面のブラスト処理に使用してはならない。

仕上げ墨

仕上げ部材の取付けの基準となる墨。仕上げ墨は、基準墨から引き出さなければならない。

地切り{じぎり}

クレーンで吊り上げている荷物が地面を離れること。

地墨{じずみ}

建築物の水平位置の基準となる墨。2 階よりも上階の地墨は、下げ振りを用いて墨の引通しを行い、順次下階の墨を上げて設置する。3 階の地墨は、2 階の地墨を基準として設置する

ことができる。

下端筋{したばきん}

梁の断面の下部に配置された鉄筋。

湿式工法

耐火被覆において、被覆材と水を混合したものをパイプで圧送し、吹き付ける方法。

湿潤養生

コンクリート打設後、コンクリートに水和反応が生じて強度が発現するまでの間、水分を供給すること。湿潤養生期間中は、コンクリート温度を 2℃以上に保たなければならない。

湿潤養生日数の算定における留意点

コンクリートの湿潤養生日数は、そのコンクリートに用いられているセメントの種類や気温により異なる。気温が 15℃以上の場合、普通ポルトランドセメントでは 5 日、混合セメントでは 7 日、早強ポルトランドセメントでは 3 日とする。気温が 5℃以下の場合、普通ポルトランドセメントでは 9 日、混合セメントでは 12 日、早強ポルトランドセメントでは 5 日とする。ただし、計画供用期間が短期または標準であるコンクリートの圧縮強度が 10N/mm^2 以上になったときや、計画供用期間が長期または超長期であるコンクリートの圧縮強度が 15N/mm^2 以上になったときは、その時点で湿潤養生を打ち切ることができる。

ジブ

クレーンの旋回支柱となる部分。ブームとも呼ばれる。クレーンの吊上げ性能は、ジブの傾斜角や長さによって変化する。

四辺固定スラブ

その四辺が梁や壁で固定されているスラブ。

シヤーコネクター

異なる 2 種類の部材の接合部において、せん断力を分担する部品。スタッドと同じ役割を持つ。耐震改修工事などにおいて、増打ちした部材と既存部材を一体化させる役割を持つ。シヤーコネクターは、型枠固定用のセパレーターとして兼用することができる。

車両動線

建設機械などの走行軌跡。荷物を積んだ車両などの動線となる現場内の通路には、必要なスペースを確保しておかなければならない。

重力排水工法

集水した水を水中ポンプで吸い上げる工法。重力により集水するのでこの名が付いている。ディープウェル工法・釜場排水工法などは、重力排水工法である。

手動ガス圧接技量資格者

鉄筋の手動ガス圧接を行うときに必要な資格を有する者。1 種～4 種に分類されている。1 種の資格者は、直径 25mm 以下の鉄筋を圧接できる。2 種の資格者は、直径 32mm 以下の鉄筋を圧接できる。3 種の資格者は、直径 38mm 以下の鉄筋を圧接できる。4 種の資格者は、直径 50mm 以下の鉄筋を圧接できる。

常時微動測定
地盤の卓越周期などを測定することで、その地盤の振動特性を調べる試験。

暑中コンクリート
日平均気温が 25℃を超える時期に施工するコンクリート。暑中コンクリートの打込み温度は、35℃以下とする。

ショットブラスト
研磨剤として、小さな鋼球を吹き付ける一般的な素地調整方法。

水平換算長
配管の屈曲部や漸縮部などにかかる圧送負荷を、水平部の長さに換算して表した値。屈曲部や漸縮部にかかる圧送負荷は、同じ管長の水平部の 2 倍～3 倍になる。

水平震度
構造計算において、震度法により静的水平力として求められる地震力。仮設物の構造計算では、仮設に作用する水平震度が 0.2 であるものとする。

水平つなぎ
支保工や足場の建地間を接続する横架材。水平方向への移動を抑制するために、2 方向に設けられる。鋼管枠組支柱の施工では、最上層および 5 層以内ごとに水平つなぎを設ける。鋼管支柱の施工では、高さ 2m 以内ごとに水平つなぎを設ける。パイプサポート支柱の施工では、その高さが 3.5m を超える時のみ、高さ 2m 以内ごとに水平つなぎを設ける。

スターラップ
鉄筋コンクリート造（RC 造）の梁において、主鉄筋を取り囲むように配置される補強筋。あばら筋の別称である。

スタッド
軽量鉄骨壁下地の支柱となる部材。

スパイラル筋
鉄筋コンクリート柱に、螺旋状に巻きつけられた鉄筋。帯筋と同様に、柱のせん断耐力を補強するために設けられる。螺旋{らせん}鉄筋とも呼ばれ、帯筋よりも大きく長い柱の施工に用いられることが多い。柱のスパイラル筋の継手長さは、スパイラル筋の直径の 50 倍(50d)以上かつ 300mm 以上とする。

スプライスプレート
鋼材を相互に接合するときに用いられる鋼製の添え板。添接板とも呼ばれる。

スペーサー
鉄筋篭のかぶりを確保するための部材。オールケーシング工法では、D13 の異形棒鋼のスペーサーを使用する。アースドリル工法・リバース工法では、平鋼のスペーサーを使用する。

すべり係数
ボルト接合部の鋼材表面の粗さ（すべりにくさ）を表す指標。すべり係数が小さいと、少しの荷重がかかっただけでボルト接合部が破断する。高力ボルトの摩擦接合面のすべり係数は、素地調整を行って 0.45 以上としなければならない。

スポット溶接
母材を相互に重ね合わせた面の一点に、電極の先端を触れさせ、その一点に電流を集中させて流すことで、母材を加熱させて溶接すること。抵抗溶接とも呼ばれる。

墨
建築物の施工において、部材の位置などを示すために、部材や躯体などに描かれる印。

スライム
場所打ち杭の掘削において、孔底に沈殿した泥などの掘削屑。スライムが残っていると、杭の沈下を引き起こすため､コンクリートを打設する前にスライムを除去しなければならない。

スライム処理
場所打ち杭の施工において、スライムを除去する作業。孔底処理とも呼ばれる。鉄筋篭の挿入前に行うスライム処理を、1 次スライム処理という。鉄筋篭の挿入後に行うスライム処理を、2 次スライム処理という。

スラブ
構造物の基礎となる鉄筋コンクリート製の床版など、鉛直荷重を支えるための板の総称。スラブの施工では、スラブの型枠を、トラス型のスラブ型枠支保工で支持することが一般的である。

スラブ型枠の支持における留意点
スラブ型枠の支保工に軽量型支保梁または鋼製仮設張を用いる場合は、その梁の中間部を支柱で支持してはならない。

静的締固め
機械の振動力・衝撃力を利用せず、機械の重量のみを利用して土を締め固めること。

設計基準強度
コンクリート構造物に求められるコンクリートの圧縮強度。部材の耐力計算で用いられる材料強度の基準となる。

接地圧
建設機械の足回りの単位面積あたりに作用する圧力。接地圧が小さい建設機械は、軟弱地盤上での作業に適している。

セパレーター
型枠板相互の間隔を保持するために使用される鋼製部品。

ソイルセメント
現地の土に、セメントミルクを混合することで、強度が高められた土。

ソイルセメント柱列山留め壁
芯材となるH形鋼を挿入したソイルセメント柱（地盤土とセメントミルクを混合したもの）を並べて造られた山留め壁。

側圧
型枠内に打ち込まれたフレッシュコンクリートが、型枠板に作用させる圧力。一般に、フレッシュコンクリートの流動性が大きいほど、側圧も大きくなる。側圧は、この他にも様々な

条件（気温など）により変化する。

粗骨材の最大寸法

コンクリートの配合設計において、骨材のふるい分け試験を行ったとき、全骨材質量の 90%以上が通過するふるい目の最小寸法。

塑性限界(w_P)

土に水を加えて含水比を大きくしていったとき、土が塑性を示す最小の含水比。

塑性図

土の物理的性質を示した図。横軸に液性限界を、縦軸に塑性指数をとり、土の分類を表す。

耐火被覆

鉄骨などを耐火性のある材料で覆うこと。耐火被覆材には、石膏やロックウールなどが使われている。

耐久設計基準強度

コンクリート構造物に求められる、耐久性を有するコンクリートの圧縮強度。コンクリートの劣化を考慮して、計画供用期間に応じた値が定められている。

耐震改修工事

建築物の耐震性を高めるために行われる改修工事。鋼板巻き工法・耐震壁増設工法・溶接金網巻き工法・連続繊維補強工法などが、代表的な耐震改修工法である。

卓越周期

地震時において、地盤の一揺れにかかる時間。構造物の固有周期と地盤の卓越周期が一致していると、構造物に作用する地震力が大きくなる。

耐震壁増設工法

地震による応力に抵抗できる構造の耐力壁を増設する工法。耐震壁の増設工事では、既設構造体と増設構造体を一体化するため、はしご筋またはスパイラル筋を補強鉄筋として施工し、増設部の割裂を防止する。

建入れ直し

建方の途中または終了時に、柱や梁の鉛直性・水平性などを測定し、小区画ごとに歪みを修正して行くこと。

建方{たてかた}

柱や梁などの部材を現場で組み立てること。

単位水量

1m³のコンクリートを造るために必要な水の量。建築工事では、原則として、185kg/m³以下としなければならない。

単位セメント量

1m³のコンクリートを造るために必要なセメントの量。建築工事では、原則として、270kg/m³以上としなければならない。

チッピング

既設コンクリート面を斫り取って粗面（凹凸のある面）に仕上げること。

中性炎
酸素とアセチレンの混合比が 1：10 となっているガス炎。中性炎による溶接では、金属の酸化や還元が生じない。

調合管理強度
コンクリート構造物の圧縮強度が、品質基準強度を満たせるようにするために、標準養生または水中養生が完了した時点で満たしていなければならないコンクリートの圧縮強度。「調合管理強度＝品質基準強度＋構造体強度補正値」である。

Ｔ形梁
鉄筋コンクリート構造物において、上面に設けたスラブと、下面に設けた梁を、Ｔ字形に組み合わせた断面を有するもの。

ディープウェル工法
不透水層を貫通させて埋め込んだ鋼管に取り付けた水中ポンプで、広範囲の地下水位を低下させる重力排水工法。

定格荷重
クレーンが吊り上げることのできる最大荷重のうち、フックやワイヤーなどの吊具の重量を含まない値。

定格総荷重
クレーンが吊り上げることのできる最大荷重のうち、フックやワイヤーなどの吊具の重量を含んだ値。「定格総荷重＝定格荷重＋吊具の重量」である。

定着長さ
梁の鉄筋を柱のコンクリートに固定するために必要となる接合部の長さ。接合に使用したアンカーボルトのうち、コンクリートに埋め込まれている部分の長さに等しい。コンクリートの圧縮強度が大きいほど、定着長さを短くできる。

テーパー管
配管の漸縮部（管径が縮小している部分）。絞り管とも呼ばれる。

テープ合わせ
現場で使用する鋼製巻尺と、工場で使用された基準となる鋼製巻尺との間に、長さや目盛の誤差がないかどうかを確認すること。

鉄筋篭{てっきんかご}
場所打ち杭において、主鉄筋と帯鉄筋で組まれた篭。場所打ち杭の施工で使用される。主鉄筋の継手は、重ね継手とし、焼きなまし鉄線で緊結する。帯鉄筋は、フレア溶接（鉄筋を重ねた溝部の溶接）で円形に加工する。

電気検層
地盤各層の電気抵抗値[Ω]を求めることで、地盤各層の性状を調べる試験。地盤の深さ方向における土層の連続性・各層の含水比・帯水層の位置などを調べることができる。比抵抗検層とも呼ばれている。

転倒解体工法
解体工事において、壁を区画ごとに転倒させて解体する工法。その施工手順は、「解体する壁の両側をダイヤモンドカッターで切断する」→「壁の底部を斫り取る」→「鉄筋を切断する」→「壁をワイヤーで引っ張って転倒させる」→「転倒した壁を破砕・解体し、搬出する」である。

透水型枠
フレッシュコンクリート中の余剰水分を、型枠面から排水できるようにした型枠。

動的締固め
振動ローラーなどの振動力や、コンパクターなどの衝撃力を利用して土を締め固めること。

トッププレート
鉄骨鉄筋コンクリート造の最上部の柱頭に設けられた鋼板。

ドラグライン
長大なブームを持つショベル系掘削機械。機体よりも低い位置にある軟弱地盤の掘削に適しており、一度に広い範囲を掘削することができる。

トラス
短い部材の節点をボルト接合し、骨組とした構造。三角形をひとつの単位として部材が組み立てられている。

トラス下弦材
トラスを構成する部材のうち、下端部にある水平部材。

トルクレンチ
高力ボルトを締め付けるために使用される道具。締付け中のトルク値（締付け力）を測定する機能を有している。

トルシア形高力ボルト
高力ボルトの一種。適切な締付け力が得られると、その先端（軸の上部）が破断する構造になっているため、締付け力の確認が容易である。座金は、軸の下部に 1 枚だけ設けられている。高力六角ボルトよりも座金が 1 枚少ないため、その軸長は、同じ呼び径の高力六角ボルトよりも 5mm だけ短い。

中掘り工法
大口径の鋼管の中から掘削して杭を埋め込み、打撃またはモルタル拡大根留めを行い、杭と支持地盤を一体化させる工法。

中掘り工法の施工手順
「既製杭の中空部にスパイラルオーガーを挿入する」→「杭とスパイラルオーガーを吊り上げて建て込む」→「穴を掘削する」→「杭を沈設する」→「ディーゼルパイルハンマで打撃して支持地盤に杭を固定するか、根固め部にセメントミルクで球根を造って杭を固定する」→「スパイラルオーガーを引き上げる」。

ナット回転法による検査
スパナなどの工具で一次締めしたナットを本締めした後の回転量を、目視により検査し、本締めによるナットの回転量が 120 度±30 度の範囲にあるものを合格とする。

荷受け構台
クレーンなどで吊り込んだ荷物を仮置きするための構台。各階の施工に転用される。

逃げ墨
基準墨を直接打てない場合に、建築物床面の通り心などから 1m 離れた位置に打たれる墨。返り墨・寄り墨とも呼ばれている。

根入れ長さ
山留め支柱となるH形鋼や鋼矢板を、支持地盤に貫入したときの貫入長さ。

根固め液
既設杭の埋込みにおいて､杭の先端を支持地盤に固定するために使用されるセメントミルク。根固め液の強度は、標準養生した供試体の圧縮強度で確認する。

根太材{ねだざい}
構台や一階床の大引材の上に、大引材と直交して配置された横架材。

乗入れ構台
建築工事において、根切りされた建設機械などの通り道や、クレーンの作業場所として設けられる頑丈な構台。

パイプサポート
型枠支保工の支柱となる部材。多数のピン穴が開いた 2 本の鋼管で構成されており、その長さを変えることができる。

はしご筋
既設構造体と増設構造体との境界部において、せん断耐力を補強し、増設部の割裂を防止するために用いられる梯子状の補強鉄筋。

肌隙{はだすき}
鋼材相互の接合部において、板厚の差があるときに生じる隙間。

曝気乾燥{ばっきかんそう}
高含水比の粘性土などを天日乾燥させて、土中の水分を蒸発させること。高含水比の粘性土は、そのままでは締固めできないが、曝気乾燥により含水比を低下させると締固めできるようになる。

バックホウ
下向きのショベルを持つ掘削機械。機体よりも低い位置にある硬土の掘削に適している。

腹筋{はらきん}
あばら筋相互の中間部（上端筋と下端筋の間）に配置される補強筋。梁端の第一あばら筋と結束させる。

パワーショベル
上向きのショベルを持つ掘削機械。機体よりも高い位置にある硬土の掘削に適している。

半自動溶接
溶接作業そのものは人力で行うが、溶接用ワイヤーの送り込みは自動的に行われる溶接。現場溶接は、半自動溶接とする場合が多い。

ハンドオーガーボーリング

人力でロッドを回転圧入させることにより、比較的浅い位置にある粘性土層から土試料を採取すること。

盤ぶくれ

地下水圧が高い地盤を掘削したとき、被圧地下水や地盤圧力を受けた掘削底面が膨れ上がる現象。ボイリングやヒービングとは異なり、周辺地盤の不同沈下は伴わない。

ヒービング

地下水位が高い高含水比の粘性土地盤を掘削したとき、周辺地盤からの土圧を受けた掘削底面が膨れ上がる現象。周辺地盤の不同沈下を伴う。

ひずみ計

物体の 2 点間における変形の有無を調べる機械。山留め壁の変形の有無や、山留め壁にかかる応力を測定するために用いられる。H形鋼を用いた切梁の軸力を測定するときは、曲げによる影響を除去するため、ウェブの両面にひずみ計を取り付け、2 台を 1 組として測定する。

品質基準強度

設計基準強度と耐久設計基準強度のうち、大きい方の値。

ピンテール

トルシア形高力ボルトの先端。適切な締め付け力が得られると、破断する構造になっている。

フィラープレート

ボルト締めする 2 枚の鋼板の肌隙が 1mm を超えるときに、板厚の差を揃えるために挿入される薄い鋼板。

フープ筋

鉄筋コンクリート造の柱において、主鉄筋を取り囲むように配置される補強筋。帯鉄筋とも呼ばれる。その溶接継手は、フレア溶接とする。その片側の溶接長さは、鉄筋径の 10 倍(10d)以上とする。

覆工板

構台の根太材の上に配置された天板。建設機械などの荷重を支持するための路面となる。

不同沈下

地盤特性の違いにより、建築物の各所に一定ではない沈下が生じること。不同沈下を受けた建築物には、傾斜や破損などの不具合が生じる。

ブラスト処理

ボルトの摩擦面などに、小さな粒を高速で吹き付けて素地調整を行うこと。ボルト摩擦面のブラスト処理方法は、ショットブラスト（鋼球を使用する方法）またはグリットブラスト（鋼片を使用する方法）とする。サンドブラスト（骨材を使用する方法）としてはならない。

ブランケット

セラミックファイバー系の無機繊維から成る耐火被覆材。鉄骨に巻き付けて使用する。

フランジ

H形鋼やＩ形鋼の上下縁に設けられた鋼板。フランジプレートとも呼ばれる。相互のフラン

ジは、その中間部にあるウェブで連結されている。

ブリーディング

フレッシュコンクリートを型枠に打ち込んだ後、型枠内で材料分離が発生することで、重い骨材が沈降し、軽い水が浮上する現象。ブリーディングの発生量が多いと、コンクリートの劣化が速くなる。

ブリーディング水

ブリーディングの影響でコンクリート表面に浮上した水。コンクリートを打ち継ぐ前に、スポンジなどで吸収し、除去しなければならない。

ブルドーザー

履帯（キャタピラ）を持つ建設機械。接地圧が比較的小さい。履帯を大きくして接地圧を更に小さくしたブルドーザーは、湿地ブルドーザーと呼ばれる。

フレア溶接

並べた鉄筋の溝に溶着金属を流し込む溶接方法。主に帯鉄筋の溶接で用いられる。

ブレース

仮設や構造物を相互に緊結し、剛性を高めるために取り付けられる斜材。

プレボーリング工法

地盤に穴を開けてから既製杭を埋め込み、打撃またはセメントミルクなどによる根留めを行う工法。

プレボーリング工法の施工手順

「杭径よりも 10cm 程度大きな径の穴を掘削する」→「根固め工となるセメントミルクを注入して球根を造る」→「杭周固定液を充填する」→「掘削ビットを引き上げる」→「既製杭を挿入する」→「杭を自沈させるか、回転圧入する」→「杭の先端を根固め部に埋め込み、定着させる」。

プレロード

根切り作業中における切梁の緩みを防止するため、切梁に予め緊圧をかけておくこと。プレロードを行うときは、切梁交差部の締付けボルトを緩めておく必要がある。

ベース筋

杭頭相互を繋ぐスラブに設けられている主鉄筋。

ベースプレート

鉄骨柱の脚部（下端部）に設けられた鋼板。

ベースモルタル

鉄骨柱のベースプレートと柱脚部のアンカーボルトを一体化させるために施工するモルタル。

ベント管

配管の屈曲部。曲がり管とも呼ばれる。

ベントナイト溶液

場所打ち杭の孔壁を安定させるために用いられる粘土質の安定液。水よりも比重が大きいので、地盤の水圧よりも強い圧力で孔壁を保護することができる。アースドリル工法の孔壁保護に用いるベントナイト溶液の濃度は、コンクリートの施工上、低粘度・低比重とすること

が望ましい。

ホイール式

足回りに車輪が使われている建設機械。機動性に優れる。

ボイリング

地下水位が高く緩い砂地盤を掘削したとき、周辺地盤からの地下水圧を受けた掘削底面から水と土砂が噴出する現象。周辺地盤の不同沈下を伴う。

保温養生

コンクリート表面を保温するなどの方法で、コンクリートの中心部と表面との温度差を小さくする養生方法。中心部と表面との温度差が大きいマスコンクリートなどの養生は、温度ひび割れを抑制するため、保温養生として行わなければならない。

母材

構造部の荷重による応力を分担する部材。溶接や切断が行われる部材である。

ポンチ

ボルト打込み用の孔の中心位置を表示するために使用される道具。

膜養生

膜養生剤を散布して水分の蒸発を防ぐ養生方法。広い範囲の養生を、早期に実施する場合に採用される。湿潤養生が困難な部位では、ブリーディング終了後に膜養生剤を散布し、湿潤養生と同等の効果が得られるようにする。

水締め

掘削部の埋戻しにおいて、砂質土を投入してから水を注入し、砂質土を締め固めること。山留め壁と地下躯体との間の埋戻しは、水締めで行う。

水セメント比

$1m^3$のコンクリート中に含まれる水とセメントの質量比。「水セメント比＝単位水量÷単位セメント量×100%」である。

目荒らし

既設コンクリート面をチッピングし、不要なレイタンスを除去すること。耐震改修工事などにおいて、新設部材と既設コンクリート面を一体化させるために行われる。

面取り

鉄筋圧接面や構造物の施工において、角の破損を防止するため、その角を斜めに切り落としたり、R形に仕上げたりすること。

油圧式荷重計

油を満たした測定部にかかる荷重を求める機械。山留め壁を緊張させる際に導入するプレロードの油圧力を求めるために用いられる。切梁と火打梁との交点に近接して設置される。

養生

打ち終えたコンクリートやセメントが硬化するまでの間､外部から力が加わらないようにし､適切な温度・湿度を保つこと。

溶接金網巻き工法

柱に金網を巻き付けて溶接することで、そのせん断耐力を高める工法。溶接する金網は、かぶり厚さを確保するため、重ね継手として型枠のセパレーターに固定する。

余長

鉄筋の折曲げ位置から鉄筋末端までの長さのうち､直線部の長さのこと｡必要となる余長は、帯筋のフックの折曲げ角度により異なる。その折曲げ角度が、180 度なら鉄筋径の 4 倍(4d)以上、135 度なら鉄筋径の 6 倍(6d)以上、90 度なら鉄筋径の 8 倍(8d)以上とする。

離隔距離

建設機械から送電線までの距離。一例として、送電電圧が 66000V の場合、2.2m 以上の離隔距離を常に確保しておかなければならない。

リチャージ工法

ディープウェル工法と同様であるが、地下水位を低下させる範囲を遮水により限定し、その範囲以外の地下に、汲み上げた水を戻す工法。汲み上げた水は、不透水層を貫通させて埋め込んだ鋼管から地下に戻す。

リバース工法

長さ 6mm 程度のスタンディングパイプで孔壁保護を行い、掘削する孔に水を満たしてから回転ビットで掘削し、真空ポンプまたはサクションポンプを用いて水と掘削土を孔外の水槽に吸い上げ、泥土を沈設させた後、泥土の上から再び孔に水を循環させて連続的に掘削する工法。スタンディングパイプ内の泥水の水位は、地下水位よりも 2m 程度高くする。

リバース工法のスライム処理

1 次スライム処理として、サクションポンプを少し浮かせて空転させ、スライムを吸い上げる。鉄筋篭の挿入後、2 次スライム処理として、サクションポンプまたはエアリフトポンプでスライムを吸い上げる。

粒度試験

地盤中に含まれる粘土・シルト・砂・礫の各質量から、その地盤の粒度分布を求める試験。

粒度分布

粒径のばらつきの程度を表す。粒径が適度にばらついている土は、「粒度分布が良い」と表現される。粒径が揃っている土は「粒度分布が悪い」と表現される。

レイタンス

ブリーディングなどの影響により、コンクリートの表面に浮き出た軟弱層。

連続繊維補強工法

炭素繊維シートなどを柱や梁に巻き付けて密着することで、その強度を高める工法。炭素繊維シートは、エポキシ樹脂などを用いて接着させ、その重ね継手の長さを 200mm 以上とする。また、柱や梁の角では、施工前に面取りを行わなければならない。

陸墨{ろくずみ}

建築物の高さの基準となる墨。2 階よりも上階の陸墨は、1 階床面の高さを基準とし、鉄骨や主筋に沿わせた鋼巻尺で測定して設置する。3 階の陸墨は、2 階の陸墨を基準として設置

してはならず、1 階の陸墨を基準として設置しなければならない。

ロックオーガー

高い掘削力を有する掘削機械。岩盤や既設構造物の掘削に用いられる。

ロングスパンエレベーター

長尺の昇降設備（搬器）を有する工事用エレベーター。複数名の人員や長尺の資材などを昇降させる必要があるときに使用されている。搬器の傾きが 10 度を超えると、自動停止する機能を備えている。

ワーカビリティー

コンクリートの施工しやすさ。スランプ試験で求められるスランプ・材料分離抵抗性（プラスティシティー)･仕上げの容易さ(フィニッシャビリティー)などから総合的に判断される。

仕上げ工事

亜鉛めっき鋼板

亜鉛めっきにより耐水性・耐食性を高めた鋼板。野縁を壁下地に突き付けるときは、野縁の端部に匚形の亜鉛めっき鋼板を取り付ける。野縁を壁仕上げ板に突き付けるときは、野縁の端部にＬ形の亜鉛めっき鋼板を取り付ける。

アクリル樹脂エナメル

平滑な美装・着色仕上げに用いられる塗料。金属系・コンクリート系・モルタル系の素地面に用いることができる。外壁面の塗装で使用される。施工時には、変性エポキシ樹脂プライマーによる下塗りを行う。

アクリル樹脂系非水分散形塗料

耐水性・接着性に優れた塗料。セメント系・石膏系の素地に用いることができる。建築物内外の塗装で使用される。美装用のＡ種と一般用のＢ種に分類されている。下塗り・中塗り・上塗りは、同一材料で行わなければならない。

アスファルトルーフィング

厚紙にアスファルトを含浸させて作られたシート状の防水材。

アスベスト含有成形板

石綿が含まれている成形板であり、解体時に作業者の肺を傷つけるおそれがある。解体工事では、アスベスト含有成形板の除去を優先して行い、その後、アスベストを含まない内装材を除去する。

雨押さえ

心木なし瓦棒葺や金属板葺屋根において、雨水の浸入や漏水を防止するために、屋根と壁との取合部に設けられる部材。固定ボルトまたは緊結ボルトで、胴縁または壁下地に留め付ける。心木なし瓦棒葺では、水上壁際から 120mm 以上立ち上げなければならない。金属板葺屋根では、平行な壁との取合部において 150mm 以上立ち上げなければならない。

アルミニウム製建具

建築物の開口部に設けられる開閉可能な仕切りのうち、アルミニウム製のもの。アルミサッシなどが代表的である。建築物の扉や窓は、その枠も含めて建具である。

アルミニウム製建具の施工における留意点

アルミニウム製建具とモルタルとの接触箇所には、アクリル樹脂系の耐アルカリ性塗料を塗布するか、陽極酸化塗装複合皮膜による表面処理を行う。仕口を組み立てるときは、成形シール材などの止水材を挟み、タッピンねじで留める。建具枠のアンカーは、周辺部では枠端部から 150mm 離れた位置で、中間部では 500mm 以下の間隔で、鉄筋に溶接する。建具枠の清掃（拭き取り）は、5%～10%のエチルアルコールを加えた温湯で行う。

アンカーピン

モルタルの総塗厚が 35mm を超える場合に設ける剥離防止用の金網を、下地に固定する金具。

アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

鉄筋コンクリート造の外壁改修工事において、コンクリートを振動ドリルで穿孔し、その孔にエポキシ樹脂を流し込んでからアンカーピンを挿入する工法。下地モルタルとコンクリートとの浮き面積が 0.25m² 以下のときに採用される。

イナズマプレート

ALC パネルを取り付けるための専用金具。

入隅

2 枚の壁等が凹字型に組み合っている部分。2 枚の壁が成す角度は、90 度である場合が多い。

色分かれ

複数色の塗料が混ざり合わず、塗装面に模様が残る塗装欠陥。塗料の混合不十分・溶剤の過剰添加・顔料粒子の分散性の差などによって生じる。

上張りボード

石膏ボード直張り工法において、横方向に張られた下張りボードの上に、縦方向に張られる石膏ボード。下張りボードに上張りボードを張り付けるときは、接着剤を主体とするが、ステープルを併用してもよい。

ウレタンゴム系塗膜防水絶縁工法

接着剤で通気緩衝シートを張り付け、その上から液状のウレタン樹脂を塗り付ける絶縁工法。通気性を確保できるので、通気緩衝工法とも呼ばれる。

ウレタンゴム系塗膜防水絶縁工法の施工における留意点

塗膜防水の塗継ぎ重ね幅は、100mm 以上とする。補強布の重ね幅は、50mm 以上とする。立ち上がり部の補強布は、平場部の通気緩衝シートの上に 100mm 張り掛ける。50m² に 1 個の割合で、脱気装置を設置する。

ALC パネル

高温・高圧で蒸気養生された軽量気泡コンクリート板。その接合部には、幅 300mm 程度の増張り用シートを、両側に 100mm ずつ張り掛けて絶縁張りとしなければならない。その孔開け寸法は、屋根または床となる ALC パネルであれば 50mm 以下、外壁または間仕切壁となる ALC パネルであればパネル短辺長の 6 分の 1 以下としなければならない。ALC パネルに石膏ボードを張り付けるときは、プライマー処理をする必要がある。

エッジクリアランス

ガラス縁から建具枠までの距離。建具に嵌め込まれたガラスには、建具枠への衝撃によるガラスの破損を避けるため、ガラスと建具枠との間に、ある程度の隙間を確保しなければならない。

エッチングプライマー

金属表面の素地調整に使用される塗料。素地調整後に塗布する塗料の付着力を向上させる。亜鉛めっき鋼面の素地調整は、「ワイヤブラシ・研磨布による汚れの除去」→「溶剤拭き」→「刷毛またはスプレーによるエッチングプライマーの塗布」の順に行う。

エマルション

不溶性の物質（アスファルトや合成樹脂など）が、乳化した状態で水中に分散している材料。

塩化ビニル樹脂系シート防水工法

塩化ビニル樹脂を主材とする合成高分子系ルーフィングシートを防水層として用いる工法。

塩化ビニル樹脂系シート防水工法の施工における留意点

出隅部や入隅部には、成形役物を設けるので、増張りしない。テトラヒドロフラン系の接着剤を使用するか、熱融着させる方法で接着する。

押出成形セメント板

セメントに珪酸質原料を加え、オートクレーブ（高圧蒸気養生釜）で養生して造られたプレキャスト部材。外壁材として用いられる。

押出法ポリスチレンフォーム

ポリスチレンフォーム断熱材を板状に成形したもの。型枠の内面に張り付けて用いられる。その全面に接着剤を塗布し、コンクリート下地に張り付ける。断熱材の継目は、突付けとして、モルタルの漏れを防ぐため、テープ張りする。

尾垂れ

折板の軒先にある溝板の底部に、15 度程度の勾配を付けて折り曲げた水切り用の部材。

落とし口

折板の底部に設けられた雨水排水口。テーパー付きのポンチを用いて開口させる。

カーテンウォール

着脱可能な非耐力壁。帳壁とも呼ばれる。

開口部補強材

出入口となる開口部の上下左右を補強する材料。垂直方向の補強材は、梁下またはスラブ下に達する長さとし、打込みピンで固定する。水平方向の補強材は、溶接またはタッピンねじで固定する。天井下地材として使用される野縁または野縁受けは、開口部補強材としても使用できる。天井にある点検口は、野縁受けで補強する。

改質アスファルトシート防水トーチ工法

下地へのプライマーの塗布後、改質アスファルトシートの裏面および下地面を、トーチで加熱・溶融させることで、シートと下地を密着させる工法。

改質アスファルトシート防水トーチ工法の施工における留意点

平場の改質アスファルトシートの重ね幅は、100mm 以上とする。3 枚のシートが重なる部分では、接着性を高めて漏水を防止するため、その中間にある改質アスファルトシートの端部を斜めに切断する。防水層の下地は、入隅部は直角とし、出隅部は R 面とする。立ち上がり部の出入隅角部には、200mm 角の増張り用シートを張り付ける。伸縮目地を設けるときは、「絶縁シートの敷設」→「伸縮目地の施工」→「保護コンクリートの施工」の順に作業する。

改良圧着張り

タイル裏面と躯体下地の両方に張付けモルタルを塗り、タイルを張り付ける工法。

改良圧着張りの施工における留意点

張付けモルタルは、下地の塗厚を 5mm 程度、タイル裏面の塗厚を 3mm 程度とする。1 回の塗付け面積は、2m² 以下かつ 60 分以内に張り終えられる面積とする。水糸を引き通してか

ら、役物タイルを先に張るようにする。化粧目地詰めは、タイル張付け後、24 時間以上が経過してから行う。

改良積上げ張り

タイル裏面だけに張付けモルタルを塗り、タイルを張り付ける工法。

改良積上げ張りの施工における留意点

張付けモルタルは、その塗厚を 7mm～10mm とし、塗置時間を 5 分以内とする。1 日の張付け高さは、1.5m 以内とする。タイルは、水糸を引き通してから、下部から上部へ向かって張り上げる。

額縁

窓や出入口において、枠と壁との境目を隠すために、枠の周囲に取り付けられる化粧材。

重ね形折板

複数の折板を重ね合わせ、そのポンチ孔にパッキンと座金を置いた後、ナットで締め付けて造られた金属製折板。ナット締めの間隔は、600mm 以下とする。

重ね幅

シートの接合部において、防水性を確保するため、2 枚のシートを重ねなければならない幅。
加硫ゴム系シートの重ね幅は、幅方向・長手方向共に 100mm 以上とする。
非加硫ゴム系シートの重ね幅は、幅方向・長手方向共に 70mm 以上とする。
塩化ビニル樹脂系シートの重ね幅は、幅方向・長手方向共に 40mm 以上とする。

荷重作用点

床パネルなどの下地材のうち、ALC パネルやカーテンウォールなどによる集中荷重を受ける箇所。荷重作用点には受け梁を設け、このような集中荷重は梁上で分割して割り付ける。

仮止め用くさび

建具枠の取付けにおいて、モルタルを圧入するまでの間、その位置を確保するために用いられる仮設のくさび。モルタルを圧入するときに取り除く。

仮葺き

折板をタイトフレームに固定する作業。金属製折板は、仮葺きの後に本締めする。

加硫ゴム系シート

硫黄などを加えて強度を増したゴム系シートから成る防水材料。

加硫ゴム系シート防水接着工法

テープ状シール材と接着剤を併用して防水層を形成する工法。

加硫ゴム系シート防水接着工法の施工における留意点

出隅部には、加硫ゴム系シートを張り付ける前に、非加硫ゴム系シートで増張りする。入隅部には、増張りしない。クロロプレンゴム系またはブチルゴム系の接着剤を使用して接着する。

嵌合型折板{かんごうがたおりいた}

下はぜ側の折板を固定し、そこに上はぜ側の折板を噛み合わせて造られた金属製折板。

乾式工法

モルタルを使用せず、ファスナーを用いて壁面に石張りする工法。

乾式工法の施工における留意点

一次ファスナーおよび二次ファスナーをスライド式ファスナーとするときは、だぼ穴を通して石材を取り付ける。その目地幅および目地深さは、8mm 以上とする。石材面と躯体裏面との距離（ファスナーの取付け代）は、70mm 程度とする。

キャップ

心木なし瓦棒葺の通し吊り子の上部にかぶせる部材。

吸水調整材

コンクリート中の水分がモルタルに吸収されることによる付着力の低下を抑制するため、モルタル塗りの下地としてコンクリート面に塗布される塗材。気泡の発生防止にも寄与する。合成樹脂エマルション希釈液またはポリマーセメントを塗材とする場合が多い。その塗厚は、1mm～2mm とする。

くつずり

人が出入りする開口部の床面に設けられた仕切材。ステンレス鋼板製である場合が多い。ステンレス鋼板製のくつずりは、厚さを 1.5mm 以上とし、ヘアライン(HL)仕上げまたは圧延(No.2B)仕上げとする。施工時には、その裏面に鉄線を取り付け、モルタルを充填しておく。

軽歩行

スリッパ・ゴム底靴を履いた維持管理者が、施工した防水層の上を歩くことができる仕上げ面。加硫ゴム系シートを施工したときは、その上に珪砂を混入した厚塗り塗料を塗布し、軽歩行できるようにする。一方、塩化ビニル樹脂系シートは、特に対策をしなくても、その上を軽歩行することができる。

けらば

切妻屋根において、棟の頂部と軒先の最下端部を結んだ縁端部。けらば部の溝板の幅は、風圧を考慮する必要があるため、瓦棒の働き幅の 2 分の 1 以下とする。けらばの変形防止材は、その長さを折板の山間隔の 3 倍以上とし、1.2m 以下の間隔で取り付ける。

けらば包み

けらば部からの雨水の浸入を防止する部材。座金とパッキンで下地金物に留め付ける。その一端は折板とし、他端は壁面を覆う形状のものとする。その継手は、タイトフレームの近くで、60mm 以上重ね合わせる。

研磨紙ずり

塗装する面を、研磨紙でしごいて平滑化すること。

硬質ウレタンフォーム

硬質ウレタンを発泡させて吹き付けた断熱層。自己接着性が高いので、コンクリート構造物の断熱材として用いられる。硬質ウレタンフォームの吹付け作業は、1 日に 80mm の厚さを上限として、その厚さを随時測定しながら行う。吹付け厚さの許容誤差は、＋0mm～＋10mm とする。吹付け過ぎたときは、カッターで切断する。施工時には、酸欠を避けるため、十分な換気が必要になる。

合成高分子系ルーフィングシート

建築物の屋根・開放廊下・ベランダなどの防水層として用いられるシート。合成ゴムを主材とした加硫ゴム系ルーフィングシートと、合成樹脂を主材とした塩化ビニル樹脂系ルーフィングシートに分類されている。

合成高分子系ルーフィングシートの施工における留意点

防水層の立ち上がりの端部には、テープ状シール材を張り付けてからルーフィングシートを張り付ける。その後、押さえ金物で末端部を固定し、不定形シール材を充填する。

合成樹脂エマルションペイント

合成樹脂が乳化した状態で水中に分散している塗料。セメント系・コンクリート系・石膏系・木質系の素地面に用いることができる。外壁面・内壁面・天井面などの塗装で使用される。水がかり部または屋外で用いられる 1 種と、室内で用いられる 2 種に分類されている。塗料は、水で希釈して使用する。気温が 5℃以下の時に塗装してはならない。

合成樹脂調合ペイント

乳化（エマルション化）していない合成樹脂塗料。金属系・木質系の素地面に用いることができる。構造用鉄筋・鋼製建具・鋼製配管など、建築物内外の不透明塗装で使用される。施工時には、鉛クロムフリー錆止めペイント・鉛丹ジンククロメート錆止めペイント・シアナミド鉛錆止めペイントなどによる下塗りを行う。

合成樹脂塗床

塗床材としてエポキシ樹脂やウレタン樹脂が使用された床。プライマー・ベースコート・トップコートから構成されており、倉庫・実験室・駐車場などの床材として使用される。

合成樹脂塗床の施工における留意点

塗床材の塗布は、プライマーの硬化後に行う。合成樹脂塗床の塗替えにおいて、既存下地面に油が付着している場合は、油潤面用のプライマーを使用する必要がある。コンクリート下地の塗床材を撤去するときは、コンクリート下地表面から 3mm 程度の深さまで削り取り、コンクリート下地面の凹凸部をエポキシ樹脂モルタルで補修する。

鋼製建具

建築物の開口部に設けられる開閉可能な仕切りのうち、鋼製のもの。その取付け精度の許容差は、ねじれ・反り・はらみは±2mm、対角寸法は±3mm とする。

構造ガスケット

防水機能を有するガラスの支持材。ガラスの支持力が不足しているときに使用される。ジッパーガスケットとも呼ばれる。構造ガスケット構法のジッパーおよびジッパー溝には、滑り剤を塗布する。また、ガラスがジッパー溝に無理なく収まるようにする。

コーティング工法

合成樹脂塗床のベースコートとして、薄膜型塗床材となるエポキシ樹脂を塗布する工法。

コーティング工法の施工における留意点

エポキシ樹脂は、プライマーの硬化後に、ローラー刷毛またはスプレーで均一に塗布する。ベースコートの厚さは、0.05mm～0.2mm とする。

小口タイル

大きさが 108mm×60mm のタイル。小口平{こぐちひら}タイルとも呼ばれる。

ゴムアスファルト系シール材

ゴムとアスファルトを溶かして混合した材料。既存のコンクリート保護層および防水層を撤去する際、撤去後の下地コンクリート面に生じた幅 2mm 未満のひび割れに注入される。

ゴムアスファルト系防水材

硬化剤または乾燥により硬化するエマルション材料。地下外壁などの塗膜防水に用いられる。ゴムアスファルト系地下外壁仕様の塗膜防水における出隅部および入隅部は、補強布を省略し、ゴムアスファルト系防水材の増吹きによる補強塗りとする。

桟鼻{さんばな}

心木なし瓦棒葺において、キャップと溝板の立ち上がり部分を掴んで取り付けられる部材。軒先の瓦棒の先端に設けられる。

シーリング材

構造物の気密性や水密性を高めるために、その目地や隙間などに挿入される充填剤。シーリング材の打継ぎ箇所を、目地の交差部やコーナー部としてはならない。

止水面戸

折板葺屋根の最上端にある溝を閉じることで、雨水の浸入を防止する部材。折板の水上端部に取り付けられ、不定形シーリング材でシールされる。

湿式工法

石材面と躯体裏面との隙間にモルタルを詰めて、外壁面に石張りする工法。

湿式工法の施工における留意点

目地幅および目地深さは、6mm 以上とする。石材面と躯体裏面との距離は、40mm 程度とする。石材は流し筋に接合する。裏込めモルタルの充填位置は、石材の上端から 30mm～40mm 下がった位置とする。

充填モルタル

外部建具の周囲に充填されるモルタル。充填モルタルの骨材に海砂を使用するときは、その塩分が、塩化ナトリウム(NaCl)換算の質量比で 0.04%以下になるまで水洗いして除塩する。

樹脂注入工法

鉄筋コンクリート造の外壁改修工事において、タイルのひび割れにエポキシ樹脂を注入する工法。タイル表面のひび割れ幅が 0.2mm 以上 1.0mm 以下の場合に採用される。そのひび割れに挙動のおそれがある場合は、軟質形エポキシ樹脂を用いる。そのひび割れに挙動のおそれがない場合は、硬質形エポキシ樹脂を用いる。

樹脂モルタル工法

合成樹脂塗床のベースコートとして、厚膜型塗床材となるエポキシ樹脂モルタルを塗布する工法。

樹脂モルタル工法の施工における留意点

プライマーの硬化後に、下地調整を行い、作業性を向上させるためにタックコートを施工す

る。エポキシ樹脂モルタルは、骨材が混合されているので、タックコートがゲル化する前に、金ゴテで塗布する。ベースコートの厚さは、3mm～10mm とする。厚膜型のエポキシ樹脂系塗床における主剤と硬化剤の 1 回の練混ぜ量は、30 分以内に使い切れる量とする。

聚楽{じゅらく}

茶褐色の砂混じり粘土に川砂と藁苆{わらすさ}を混ぜて作られた壁の表面仕上げ材料。

常温乾燥形フッ素樹脂エナメル

美粧性・耐久性に優れた塗料。金属系・セメント系・石膏系の素地面に用いることができる。外壁面の塗装で使用される。塗布は、刷毛・ローラーブラシ・吹付けのいずれかの方法で行う。

常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗りの施工における留意点

通常の温度条件下における工程間隔時間は、中塗りと上塗りの場合は 16 時間以上 7 日間以内とする。

シリコーン系シーリング材

耐候性・耐熱性・耐寒性・耐久性に優れたシーリング材。ガラス面の耐光接着性にも優れているが、その上から塗装することはできない。金属・ガラスなどのシーリング工事に使用される。ガラス相互のシーリング工事では、このシーリング材を使用しなければならない。

心木なし瓦棒葺

通し吊り子と溝板を交互に敷き並べ、通し吊り子を固定してキャップをかぶせた後、はぜで留め付けて葺いた屋根。

心木なし瓦棒葺の施工における留意点

屋根下葺アスファルトルーフィングは、長手方向の重ね幅を 200mm 程度、流れ方向の重ね幅を 100mm 程度とする。ステープル釘による仮止め間隔は、300mm 程度とする。

伸縮調整目地

タイルの割れを防止するため、下地となる構造物の目地位置と、タイルの目地位置を、同一の位置に合わせて作られた目地。縦目地では 3m 内外、横目地では 4m 内外ごとに設ける。

スタッコ

消石灰に大理石粉と粘土を混ぜて作られた壁の表面仕上げ材料。

スタッド

軽量鉄骨壁下地の支柱となる部材。高さが 4.0m 以下である 65 形、高さが 4.0m を超えるが 4.5m 以下の 90 形、高さが 4.5m を超える 100 形に分類されている。スタッドには、スペーサーと振れ止めを取り付ける。スタッドの間隔は、ボード 1 枚張りのときは 300mm 程度、ボード 2 枚張りのときは 450mm 程度とする。

ストレッチルーフィング

合成繊維不織布にアスファルトを含浸させて作られた防水材。伸張性に優れるため、アスファルト防水の増張りに使用される。

スパッタ

溶接時に飛散した金属粒。鉄鋼面に付着したスパッタは、ディスクサンダーで除去する。

スペーサー
軽量鉄骨下地のスタッドの間隔を保持する部材。
スライディング式自動扉
パネルの移動によって開閉される自動扉。起動センサーと補助センサーで人物を感知し、自動的に開閉する機能を有している。その開速度は、500mm/秒以下に設定する。その閉速度は、350mm/秒以下に設定する。車椅子使用者用の押しボタンスイッチは、ドアよりも 70cm～100cm 後退した位置のうち、床から 60cm～120cm の高さに設置する。
スライド
パネル等が移動すること。パネル等の移動を許容できるようにすることは、スライド方式またはスライド構法と呼ばれる。
スライドホール
カーテンウォール・ALC パネル・押出成形セメント板などの外壁部材に設けられる横長の移動用留付け穴。地震時などに外壁部材がスライドできるようにすることで、外壁部材を層間変位に追従させる。
成形キャント材
防水層の入隅部に用いられる成形材。その取付け角度は、45 度とする。その見付幅は、70mm 程度とする。
絶縁工法
下地と防水層を密着させない工法。下地に水分が含まれている場合など、防水層に対する下地の影響を除去したいときに採用される。
石膏{せっこう}ボード
硫酸カルシウム水和物を主成分とする石膏を、厚紙で被覆して作られた板。耐火性・断熱性・遮音性などに優れた材料である。
石膏ボード直張り工法
壁に接着剤を直接塗り付けて、石膏ボードを直接張り付ける工法。
石膏ボード直張り工法の施工における留意点
接着材は、ボードの仕上がり厚さ(a)の 2 倍の高さ(2a)に盛り上げた後、団子状になった接着材に石膏ボードを押し付けて仕上り寸法(a)にする。一度に練る接着材の量は、1 時間以内に使い切れる量とする。1 回の接着材の塗付け面積は、ボード 1 枚分とする。石膏ボード中央部における接着材の塗付け間隔は、その高さが床上 1.2m 以下であれば 200mm～250mm、床上 1.2m を超えていれば 250mm～300mm とする。石膏ボードの下端は、石膏ボードの吸湿を防ぐため、スペーサーで 10mm 程度浮かせておく。
石膏ボード張付け工法
壁に接着剤を塗り付けて、石膏ボードを張り付けた後、釘打ちを行う工法。
石膏ボード張付け工法の施工における留意点
壁が木製下地の場合は、ボード厚の 3 倍以上の長さがある釘で留め付け、釘頭が平らになるまで打ち込む。壁が軽量鉄骨下地のときは、ボードの端部から 10mm 程度内側で、下地の裏

面の余長が 10mm 以上となるドリリングタッピンねじで留め付ける。

接着剤張り

下地に塗布された接着剤面にタイルを張り付ける工法。

接着剤張りの施工における留意点

接着剤は、塗厚を 3mm 程度として金ゴテで塗り付けた後、櫛目{くしめ}ゴテで櫛目を立てる。1 回の塗付け面積は、3m²以下かつ 30 分以内に張り終えられる面積とする。

セッティングブロック

エッジクリアランスを確保するため、ガラスの下に設置される支持ブロック。セッティングブロックは、ガラス下辺の両角から、下辺の長さの 4 分の 1 だけ内側となる位置に設置する。ガラス下辺の両角に設置してはならない。

Z クリップ

押出成形セメント板を支持部材（下地鋼材）に取り付けるための専用金具。Z 形をしている。下地鋼材の荷重受けに 30mm のかかり代を確保して溶接し、ルーズホールの中心にボルト止めして固定する。

セルフレベリング材

石膏組成物またはセメント組成物に骨材や流動化剤を添加した材料。内装の張物下地には、セルフレベリング材塗りが採用されることが多い。その塗厚は、10mm 程度とする。

セルフレベリング材塗りの施工における留意点

下地処理のため、デッキブラシなどを用いて、2 回の吸水調整材塗りを行う。セルフレベリング材の養生は、自然乾燥で 7 日以上行う。養生期間中は、日光と通風を避けるため、窓を閉めておく。養生開始から 30 日以内に表面仕上げ材を施工する。

膳板{ぜんいた}

窓の下枠の室内側において、額縁の一部として設けられる化粧材。

そぎ継ぎ

先打ちしたシーリング材の終端を斜面状に加工し、その終端の上面から打ち継ぎを行うこと。

素地調整

コンクリート面などの塗装の前に、塗装する表面の肌理{きめ}を調整すること。素地ごしらえとも呼ばれる。透明仕上げとなる第 1 種の素地調整では、パテ付けを行う。不透明仕上げとなる第 2 種の素地調整では、パテかいを行う。その後、吸込み止めのため、合成エマルションパテとなる反応形合成樹脂ワニスを塗布する。

袖壁{そでかべ}

軽量鉄骨壁下地の開口部と構造物の壁との間に設けられた短い壁。袖壁を設けたときは、垂直方向の補強材をスタッドに添えて補強しなければならない。

タイトフレーム

金属製折板屋根の施工において、梁と折板との固定に使用する部品。受梁にアーク溶接される。その下底の両側は、立ち上がり部分の端から 10mm 残して隅肉溶接した後、スラグを除去して防錆処理する。隅肉の厚さは、タイトフレームの板厚と同じにする。

ダイヤモンドカッター

刃先に人造ダイヤモンドの粉を付けた切断機械。ビニル床シートの撤去などで使用されるが、その際には刃の出をモルタルの厚さ以下としなければならない。磁器質床タイルの張替え部周囲の縁切りにも使用される。

タイル部分張替え工法

鉄筋コンクリート造の外壁改修工事において、ひび割れが生じたタイルを除去して張り替える工法。タイル表面のひび割れ幅が 0.2mm 以上の場合に採用されるが、同じ色のタイルが見当たらないなどの場合には、代わりに樹脂注入工法が採用されることもある。

多彩模様塗料

複数の色で構成される美粧性に優れた塗料。すべての系統の素地面に用いることができる。建築物内部の塗装で使用される。塗布は、吹付けガンによる 1 回塗りとする。

縦壁スライド構法

ALC パネルの上部が縦方向に移動することで、変形に追従できるようにした機構。ALC パネルは、縦受けプレートおよびスライドハタプレートで躯体に固定する。その縦目地は、3 面接着とする。その横目地は、2 面接着とする。

建具

建築物の開口部に設けられる開閉可能な仕切り。扉や窓は、建具である。

縦張り工法

躯体の支持部材に取り付けられた押出成形セメント板が、躯体の層間変位に対して、ロッキングにより追従できるようにする工法。その縦目地間隔（長辺の目地幅）は 8mm 以上、横目地間隔（短辺の目地幅）は 15mm 以上とする。押出成形セメント板の 4 隅には、Z クリップを設ける。荷重受けは、押出成形セメント板のすべての段に設ける。

ダブル野縁

通常の 2 倍の幅がある野縁。通常のシングル野縁の幅は 25mm であるが、ダブル野縁の幅は 50mm である。天井板の継目に、壁に添えつく形で設けられている。ダブル野縁の間にある野縁受けには、等間隔にシングル野縁を設ける。

だぼ穴

石材の接合部となる目地に開ける穴。

注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法

鉄筋コンクリート造の外壁改修工事において、小口タイル張り外壁の浮きタイルを無振動ドリルで穿孔し、その孔にアンカーピンを挿入してからエポキシ樹脂を流し込む工法。タイル陶片のみの浮きがある場合に採用される。

ちりじゃくり

真壁の周囲・出入口枠・額縁などにおいて、塗装した壁の乾燥によって生じる隙間を目立たなくするために施工される溝。この溝に、中塗りの層と上塗りの層を塗り込むようにする。

つや有り合成樹脂エマルションペイント

美粧性に優れた合成樹脂エマルションペイント。室内の鉄鋼面の見え掛り部分で使用される。

つや有り合成樹脂エマルションペイント塗りの施工における留意点

鉄鋼面には、水系の錆止めペイントによる下塗りを行う。必要がある場合は、下塗り後に 2 回および中塗り後に 2 回の研磨紙ずりを行うが、この研磨紙ずりは不要である場合が多い。

艶不足

塗装面に十分な艶{つや}が表れない塗装欠陥。下塗りプライマー面の平滑化不足や、塗料の過剰希釈などによって生じる。

ディスクサンダー

円盤型の回転砥石から成る切断機械。研磨機械としても使用されるため、ディスクグラインダーとも呼ばれる。アスベストを含有していないビニル床タイルの接着剤は、ディスクサンダーで除去する。

テーパーエッジボード

石膏ボードの端を斜めに面取りしたボード。その突付けジョイント部の目地処理は、「ジョイントコンパウンドによる下塗り」→「ジョイントテープによる中塗り」→「ジョイントコンパウンドによる上塗り」の順に施工する。

出隅

2 枚の壁等が凸字型に組み合っている部分。2 枚の壁が成す角度は、270 度である場合が多い。

天井吊りボルト

野縁や野縁受けを天井スラブから吊り下げるためのボルト。鋼製インサートに挿入して施工する。周辺部では端部から 150mm 内側に取り付け、中間部においても 900mm 間隔で取り付ける。天井懐が 1.5m 以上ある鋼製下地の振れ止め補強に用いる場合は、直径 9mm 以上の丸鋼または⊏－19×10×1.2mm 以上の溝形鋼で作成し、1800mm 程度の間隔で取り付ける。

通し吊り子

心木なし瓦棒葺の溝板を、巻はぜで留め付ける部材。平座金を取り付けてから、ドリリングタッピンねじで下葺および野地板を貫通させ、母屋に固定する。

トップコート

合成樹脂塗床の表層。ベースコートの機能を高める層であり、ウレタンなどで施工する。その仕上げ方法は、美装耐候仕上げ・防滑仕上げ・つや消し仕上げ・導電仕上げ（帯電防止仕上げ）などに分類されている。

取合部

複数の部材が接続している部分。その接続の状態は、「取り合い」または「納まり」と呼ばれる。

流しのべ工法

合成樹脂塗床のベースコートとして、薄膜型塗床材または厚膜型塗床材となる弾性ウレタン樹脂を流し込む工法。

流しのべ工法の施工における留意点

セルフレベリング仕上げを行い、平滑化する。ベースコートの厚さは、薄膜の場合は 0.8mm 程度、厚膜の場合は 2.0mm 程度とする。弾性ウレタン樹脂系塗床における 1 回の塗布量は、2kg/m^2 以下とする。弾性ウレタン樹脂の塗布中には、十分な換気を行う。

2 液形ポリウレタンエナメル

美粧性・耐久性に優れた塗料。金属系・セメント系・石膏系の素地面に用いることができる。室内柱・外壁面の塗装で使用される。塗布は、主剤と硬化剤を混合した後、エアレススプレーで行う場合が多い。

2 液形ポリウレタンエナメル塗りの施工における留意点

通常の温度条件下における工程間隔時間は、下塗りと中塗りの場合は 16 時間以上 7 日間以内、中塗りと上塗りの場合は 72 時間以上とする。塗料は、可使用時間内に使い切らなければならない。

熱溶接工法

ビニル床シートの接着剤が硬化・乾燥した後、その継目や端部にある溶接部の溝を、V形またはU形に切断し、熱溶接する工法。180℃～200℃の熱風で加熱溶接した後、冷却を待ってから溶接の余盛を切断して平滑化する。溝の深さは、シート厚さの 3 分の 2 程度とする。

軒先面戸

折板下部の開口部と外壁との隙間を塞ぐ部材。

野縁{のぶち}

天井板を取り付けるために、格子状に配置された材料。クリップで野縁受けに留め付ける。そのクリップは、交互に向きを変えて取り付けなければならない。野縁の間隔は、ボード 1 枚張りのときは 300mm 程度、ボード 2 枚張りのときは 360mm 程度とする。

ノンワーキングジョイント

伸縮をほとんど受けない目地。鉄筋コンクリートなどの継目は、伸縮を受けないので、3 面接着とする。ワーキングジョイントの施工とは異なり、バックアップ材やボンドブレーカーは使用せず、シーリング材のみを用いる。

刷毛目{はけめ}

塗装面に刷毛の跡が残る塗装欠陥。塗料の流動性不足などによって生じる。

端あき

石材の端部からだぼ穴までの空き寸法。

はじき

塗装面の一部に塗料が付着していない塗装欠陥。素地への水・油・ゴミなどの付着や、刷毛やローラーへの水の付着などによって生じる。

はぜ締め形折板

折板にはぜを施工し、隣り合ったはぜを掴み込み、吊り子などの固定金具で止めた後、ボルト締めして造られた金属製折板。

バックアップ材

目地の深さ（シーリング材の高さ）を調整するための材料。ポリスチレンフォームまたは合成ゴム成形材で作られており、ワーキングジョイントなどの目地の支持部に挿入される。

張付けモルタル

タイルを張り付けるときに、下地モルタル上に塗り付けるモルタル。工法によっては、タイ

ル裏面にも塗り付ける必要がある。

ハンガー

軽量鉄骨天井下地の吊りボルトに取り付けられている野縁や野縁受けを支えるための部材。野縁受け用のハンガーは、2 個のナットを挟み込んで吊りボルトに固定する。

PC パネル

鉄筋とコンクリートを一体化させた板。工場で組み立ててから現場に搬入される。

非加硫ゴム系シート

硫黄などが加えられていないゴム系シートから成る防水材料。

引張接着強度検査

引張接着試験機でタイルを引っ張り、その引張接着強度と破壊状況から施工の合否を判定する検査。引張接着強度が 0.4N/mm² 以上かつコンクリート下地の接着境界面における破壊率が 50%以下であれば、合格と判定される。試験体となる供試体の個数は、100m² 以下ごとに 1 個以上かつ全体で 3 個以上とする。

ビニル床シート

木床・コンクリート床などに接着剤で張り付けられる厚さ 2.0mm のビニル製シート。乾燥した場所で施工するときは、酢酸ビニル樹脂系またはウレタン樹脂系の接着剤を使用する。浴室などの湿気のある場所で施工するときは、エポキシ樹脂系またはウレタン樹脂系の接着剤を使用する。

ビニル床シートの施工における留意点

シートの巻きぐせをとるため、24 時間以上仮敷きしてから施工する。接着剤を塗布したシートの圧着は、圧着棒で空気を押し出しながら行い、45kg のローラーで転圧する。シートを立ち上げて幅木とする場合、その天端はシリコーン系シーリング材でシールする。

ビニル床タイル

厚さ 2.0mm のビニル床シートを方形に切り揃えて作られたタイル。

ファスナー

カーテンウォールなどを構造物に取り付けるために使用される金物。

フットプレート構法

ALC パネル製の間仕切壁の上部を、面内方向に可動できるようにした機構。外壁パネルとの取合部には、幅 20mm～30mm の伸縮目地を設ける。その目地材は、耐火目地材とする。ALC パネル天端と間仕切チャンネル底部との隙間（かかり代）は、20mm 程度とする。

プライマー

下地と防水層との接着性を向上させるために、最初に使用される材料。

ブラスト処理

塗装面に研掃材を高速で吹き付けることで、鉄鋼面の錆を除去し、塗装面の粗度を調整すること。

フラッシュ戸

中骨となる框{かまち}の片面または両面に、表面仕上げが平らな表面板を張って作られた扉。

フラッシュ戸の表面板と中骨は、構造用接合テープを用いて接合する。

振れ止め

軽量鉄骨壁下地のスタッドや吊りボルトの振動を抑制する部材。フランジ側を上向きにしてスタッドに引き通す。床ランナーの下端から、1200mm 程度の間隔で取り付けなければならないが、上部ランナーの上端から 400mm 以内の位置には取り付けなくてよい。

ベースコート

合成樹脂塗床の基層。床材に求められる機能（防塵・耐摩耗・耐衝撃・美装など）に応じた樹脂モルタルまたは骨材で施工する。その施工方法は、コーティング工法（薄膜型塗床工法）・流しのべ工法・樹脂モルタル工法などに分類されている。

変性エポキシ樹脂プライマー

変性剤を加えて性質を変化させたエポキシ樹脂塗料。亜鉛めっき鋼面への常温乾燥形フッ素樹脂エナメル塗りにおいて、下塗りに使用される。

変成シリコーン系シーリング材

耐熱性・耐寒性に優れたシーリング材。ガラス面の耐光接着性には劣っているが、その上から塗装することができる。金属・コンクリート・ALC パネル・PC パネル・押出成形セメント板などのシーリング工事に使用される。

防滑仕上げ

合成樹脂塗床のトップコートとして、すべり止めのある床を造る仕上げ方法。塗布材の硬化前に骨材を敷設して仕上げるか、塗床材に珪砂やウレタンチップを混合して仕上げる。

防火認定

壁紙などの防火性能を、不燃材料・準不燃材料・難燃材料に分類すること。防火認定を受けた壁紙の張替えでは、既存の壁紙と下地の糊をすべて除去し、下地調整を行ってから、新たな壁紙を張り付ける。既存壁紙の上に新たな壁紙を張り付けてはならない。

防水形複層塗材 E

防水形合成樹脂エマルション系複層仕上げ塗材の略称。建築仕上げ材の一種であり、ダンセイタイルとも呼ばれている。

防水形複層塗材 E 仕上げの施工における留意点

吸込み調整のための下塗材の塗布量は、0.1kg/m²～0.3kg/m² とする。主材の塗布方法は、吹付け・ローラー塗り・コテ塗りのいずれかとする。出隅部・入隅部・目地部には、主材の増塗りを行う。凸部処理は、ローラーまたはコテを用いて、模様塗り後 1 時間以内に、見本と同じになるように行い、その後 24 時間以上乾燥させる。上塗りは、2 回に分けて行う。

保護防水密着工法

アスファルト防水工事において、構造物を貫通する配管に、網状アスファルトルーフィングで増張りし、網目の目つぶし塗りを行ってから、ストレッチルーフィングを配管に巻き付ける密着工法。金属バンドの上部は、ゴムアスファルト系シール材で防水する。

補修モルタル

構造材料の欠損部を埋めるために用いられるセメントモルタル。構造耐力上支障がなければ、

ALC パネルの欠けを補修することができる。

補助センサー

スライディング式自動扉において、起動センサーでは感知しにくい位置にいる人物を感知する装置。スライディング式自動扉には、補助センサーを取り付けなければならない。

保水剤

モルタルのひび割れを抑制するための混和剤。メチルセルロース類の水溶性樹脂をセメントモルタルに混入させると、セメントモルタルの保水性が良くなり、作業しやすくなる。

ポリスチレンフォーム断熱材

水濡れに強い断熱材。この断熱材にプライマーを塗布すると、硬化後に接着剤で直張りすることができるため、石膏ボード直張り工法で使用されている。

ポリサルファイド系シーリング材

耐汚染性・耐熱性に優れたシーリング材。伸縮性には劣っている。金属・石・タイル・コンクリートなどのシーリング工事に使用される。

ポリマーセメントモルタル充填工法

外壁の欠損部にポリマーセメントモルタルを充填し、その全面に複層仕上げ塗材塗りを行う工法。コンクリート打放し仕上げの外壁において、コンクリート表面の剥落が比較的浅い欠損部がある場合に採用される。

ボンドブレーカー

バックアップ材とシーリング材との接着を防ぐために使用されるシリコーンテープまたはポリエチレンテープ。ただし、シリコーン系シーリング材が用いられている場合は、シリコーンテープを使用してはならない。ワーキングジョイントの施工で用いられる。

間仕切壁

建築物の内部空間を複数の部屋に仕切るための非耐力壁。

マスク

タイルの裏にも張付けモルタルを塗る際、タイルの裏面にかぶせておく板。張付けモルタルは、タイルの裏面にかぶせたマスクの全面に、4mm 程度の塗厚でコテ圧着させる。

マスク張り

一辺が 25mm を超えるが小口タイル未満のタイルを、マスクを使用して張り付け、張付けモルタルがタイルの周辺からはみ出すまで叩き締めた後、表張りの紙を剥がしてタイルの配列を整える工法。

見え掛り部分

建築物の部材のうち、表側の露出している部分。

見え隠れ部分

建築物の部材のうち、裏側の露出していない部分。

密着工法

下地と防水層を密着させる工法。アスファルトルーフィングを下地に密着させるアスファルト防水密着工法などが代表的である。

密着工法の施工における留意点

アスファルト防水密着工法では、平場のアスファルトルーフィング類の重ね幅を 100mm 程度とする。入隅部の最下層には、幅 300mm 程度のストレッチルーフィングを増張りした後、アスファルトルーフィングを張り付ける。

密着張り工法

振動機（ヴィブラート）を用いてタイルを締め固めることで、タイルを張り付ける工法。

密着張り工法の施工における留意点

張付けモルタルは、2 層に分けて塗り、その塗厚を 5mm～8mm とする。1 回の塗付け面積は、2m² 以下かつ 20 分以内に張り終えられる面積とする。タイルは、上部から下部へ向かって、一段おきに張り付ける。

棟包み

心木なし瓦棒葺や金属板葺屋根において、棟からの漏水を防止するために設けられた水返し部を包み込む部材。棟覆いとも呼ばれる。折板に止水面戸を取り付けた後、一辺 200mm 程度の山形に施工し、その両端にエプロン（側板）を取り付けてから、固定ボルトで折板に留め付ける。

むら直し

塗厚の著しい凹凸を平均化するため、下塗りの後、もう一度その上から塗りなおすこと。

メタルカーテンウォール

工場で製作された金属製の非耐力壁。建築物の外周部を構成するアルミニウム合金形材として用いられる。その寸法許容差は、長さが 1.5m 以下であれば±1.0mm、長さが 1.5m を超えるが 4m 以下であれば±1.5mm、長さが 4m を超えるのであれば±2.0mm とする。

木材保護塗料

オイルステインが含まれた耐久性のある塗料。外壁面・内壁面・ベランダ・ウッドデッキの塗装で使用される。塗料は、原液のまま使用する。

モザイクタイル張り

一辺が 25mm 以下のタイルを、マスクを使用せず、張付けモルタル上に 300mm 角の張付け台紙ごと張り付け、モルタルの硬化後に台紙を剥がす工法。小面積のタイル工事で採用される。

モザイクタイル張り工法の施工における留意点

張付けモルタルは、2 層に分けて塗り、その塗厚は 3mm～5mm とする。1 回の塗付け面積は、3m² 以下かつ 20 分以内に張り終えられる面積とする。

モジュラス

目地に注入されるシリコーン系シーリング材の引張強さ。モジュラスが高いほど、強度は大きいが、伸縮への対応は難しくなる。ALC パネルなどの目地（ワーキングジョイント）には、低モジュラスのシーリング材を使用する。鉄筋コンクリートなどの目地（ノンワーキングジョイント）には、高モジュラスのシーリング材を使用する。

役物{やくもの}タイル

窓・出入口・隅・角などのように、特殊な形状となる箇所に張るタイル。

八千代折
心木なし瓦棒葺において、溝板の水返し部を、瓦棒の高さまで立ち上げて折り曲げること。

屋根露出防水絶縁工法
屋根の防水層をそのまま仕上げ面とする絶縁工法。部分接着可能な砂付き穴あきルーフィングを用いる方法が一般的であるが、部分粘着層付き改質アスファルトルーフィングシートを用いることもある。その施工手順は、「下地へのプライマー塗り」→「砂付き穴あきルーフィングの施工」→「ストレッチルーフィングのアスファルト流し張り」→「アスファルトルーフィングのアスファルト流し張り」→「砂付きストレッチルーフィングのアスファルト流し張り」→「仕上げ塗材塗り」である。

U カットシール材充填工法
鉄筋コンクリート造の外壁改修工事において、タイルのひび割れの周辺部を U 字型に切除し、そこに可撓性エポキシ樹脂を充填した後、補修タイルを張り付ける工法。タイル表面のひび割れ幅が 1.0mm を超える場合に採用される。

溶接金網
コンクリートのひび割れを抑制するために、保護コンクリートの中間部に配置された金網。

横壁ボルト止め構法
ALC パネルが水平方向に移動することで、変形に追従できるようにした機構。ALC パネルは、5 段以内ごとに受け金物で支持し、フックボルトで外壁の定規アングルに固定する。

横張り工法
躯体の支持部材に取り付けられた押出成形セメント板が、躯体の層間変位に対して、スライドにより追従できるようにする工法。押出成形セメント板の 4 隅には、Z クリップを設ける。荷重受けは、押出成形セメント板の 2 段～3 段ごとに設ける。

ランナー
スタッドを定められた位置に取り付ける部材。上下端では端部から 50mm 内側に固定し、中間部においても 900mm 間隔で固定する。ランナーの継手は、突付け継手とする。

ルーズホール
カーテンウォール・ALC パネル・押出成形セメント板などの外壁部材に設けられる大型の留付け穴。ルーズホールを設けると、スライド方式のファスナーに接続された外壁部材が移動できるようになるため、地震時などに生じる層間変位の影響を吸収し、躯体の施工誤差による外壁部材の破壊を防止することができる。

ルーフィング
防水層となる屋根葺き材料。屋根以外の場所で使われることもある。

ルーフドレーン
屋上防水において、屋上の水を集めて下階へと排水するために設けられた溝。屋根防水改修工事を行うときは、ルーフドレーン周囲の既存保護コンクリート層を、ルーフドレーン端部から 500mm の位置まで四角形に撤去した後、ルーフドレーン周囲の既存防水層を、ルーフドレーン端部から 300mm の位置まで四角形に撤去する。

露出防水用改質アスファルトシート

改質アスファルトシート防水トーチ工法で使われる厚さ 4.0mm 以上の改質アスファルトシート。その重ね部は、砂面を下にしてトーチで十分に炙り、砂を沈ませてから重ね合わせる。

ロッキング

パネル等が回転すること。パネル等の回転を許容できるようにすることは、ロッキング方式またはロッキング構法と呼ばれる。

ワーキングジョイント

大きな伸縮を受ける目地。ALC パネル・PC パネルなどの継目は、この伸縮に追従できるよう、2 面接着とする。目地に挿入したシーリング材の下面には、バックアップ材を詰める。このバックアップ材の上面には、ボンドブレーカーを取り付ける。